財団法人 日本ハンドボール協会編　平成24年 7月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻528号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

2012ロンドン五輪世界最終予選(男・女)
第7回春の全国中学生選手権大会
第9回東アジアクラブ選手権

[表紙写真:第7回春の中学生大会優勝校、男子·滝尾中学·山本選手(右)、女子·けやき台中学·山口選手(左):写真提供·スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

いま日本が取り組むこと

（財）日本ハンドボール協会常務理事　**角　紘昭**

「また、だめだった！！」と、今回のオリンピック予選の結果を前に日本のハンドボール関係者は悔しい思いをしています。「もう、ダメなんじゃないか」という声も耳にします。

しかし、ハンドボールに夢中になって取り組んでいる次の世代に対し、ここであきらめるわけにはいかないのです。

夢を持ってハンドボールに取り組んだり、スポーツの持つ力を信じてハンドボールに取り組んだりしている次代の仲間たちに、なんとか次への夢をつなぐことが必要です。

韓国、中国に加え中近東の国々の台頭、年々進化してゆく世界のハンドボール戦術等々、 日本を取り巻く情勢は、ますます厳しくなってきています。

その中で、ハンドボール界の「夢」を実現する最も重要なポイントは「人づくり」です。

どのような状況においても的確な判断のできるプレーヤー、最後まであきらめないでやりぬく強い気持ちを持つプレーヤー等の育成。これと共に、選手の発達段階を十分に理解して的確な指導のできる指導者の育成、研修も欠くことはできません。

日本のハンドボール界の現状をみますと

・ NTSでは各年代に必要とされる指導内容と方法が提示されました。
・ この内容を徹底して伝達するためブロック技術委員、指導委員会を中心に動き始めています。
・ 各ブロックの選考委員やジュニアアカデミーを中心に「発掘・育成」の歯車を加速させています。
・ 新しい協会組織の中で理事の選考が始まり、恒例となった全国理事長会などを通して日本協会との意思の疎通もさらに充実してきました。

ハンドボールの魅力は「胸のすくようなシュート」「全力で走りながらの的確な判断力」「変幻自在なオフェンス」「柔軟で且つ頑強なディフェンスコンビネーション」等々が、コートの上で繰り広げられるところです。

このハンドボールの魅力を十分に発揮して楽しむためには、少年期に、基礎的な技術と創造性を身につけたハンドボーラーの育成が必要です。

今、日本のハンドボール界が取り組むことは、「正確さ・創造性」をキーワードとして、NTSの一貫指導の徹底です。これこそが10年先、15年先の日本が生まれ変わることができる唯一の方法です。

これをもとに、特に少年期の指導者は、「ゲームで勝つ、負ける」ことにこだわる前に「練習の成果がゲームで発揮できたか」に重点をおいて、ハンドボール大好き少年、少女を育成して頂ければ、日本のハンドボールの広がりと高まりが約束されると信じています。

2012 ロンドンオリンピック IHF 世界最終予選 女子

日本はロンドンオリンピック出場ならず

2012 ロンドンオリンピック IHF 世界最終予選（女子）が、2012 年 5 月 25 日（金）～27 日（日）の 3 日間、フランス（リヨン）で開催され、日本は、モンテネグロ、フランス、ルーマニアとの第 1 グループに所属、総当たり戦で 3 戦を闘ったが、残念ながら 3 戦全敗でオリンピック出場はならなかった。

2012 ロンドンオリンピック出場国		
1	イギリス	開催国
2	ノルウェー	2011 世界選手権優勝国
3	スウェーデン	ヨーロッパ大陸予選
4	韓国	アジア大陸予選
5	ブラジル	パンアメリカ大陸予選
6	アンゴラ	アフリカ大陸予選
7	モンテネグロ	IHF 予選トーナメント 1
8	フランス	同上
9	スペイン	IHF 予選トーナメント 2
10	クロアチア	同上
11	ロシア	IHF 予選トーナメント 3
12	デンマーク	同上

女子代表オリンピック世界最終予選を終えて

（財）日本ハンドボール協会副会長　市原 則之

日本が初めてオリンピック競技大会に選手団を派遣したのは、1912 年にストックホルムで開催された第 5 回大会でした。それから数えて 100 年を迎える本年は、7 月にロンドンで 30 回目のオリンピックが開催されます。

そうした意味でロンドン大会は日本にとって大変意義深く記念すべき大会であります。

日本のハンドボール競技は、歴代の協会役員や強化関係者、とりわけ代表チームの選手スタッフの努力も空しく、男子が 1988 年のソウル以降、女子においては 1976 年のモントリオール以降オリンピックへの道が途絶えております。

そこで本年のロンドン大会にはハンドボール界の命運をかけ、是が非でも男女揃って出場すべく渡邊会長、川上専務理事の下、一丸となって強化事業に取り組んで参りました。

しかしながら男子は 4 月初旬のクロアチア、女子は 5 月下旬のリヨンでまたしてもオリンピック出場の悲願を成すことができませんでした。

5 月 25 日から 27 日の 3 日間フランス第二の都市リヨンで開催された女子の世界最終予選に、私は日本選手団の団長を仰せつかり現地に乗り込みました。黄監督のもと近年著しくレベルアップした日本チームは戦前の目標として、第 2 戦の地元フランスには勝てないまでも、第 1 戦のモンテネグロと第 3 戦のルーマニアを破ってロンドンオリンピック出場をかかげ、全員が士気を高めて試合に挑みました。

しかしながら、ヨーロッパのクラブ選手権に優勝しその勢いでリヨン入りしたモンテネグロは強く、日本チームは後半の中盤まで競り合いながらも最終的に 6 点差で敗れてしまいました。結局、この第 1 戦を落としたのが尾を引きフランスには惨敗し、実力的にも勝てるはずのルーマニアにも敗れ、儚くロンドンの道を途絶されました。

このようにオリンピック出場の夢を断たれた沢山の代表選手の号泣に今日まで何度出会ったことか、協会役員としての責任を重く感じている次第であります。

女子代表はコンビネーションプレーをはじめ、ゲームスタミナなどチーム力は著しい成長を遂げておりますが、結局敗戦の原因はシュート力等の個人技の脆弱さと全体的パワー不足が露呈したことのように思えます。

その反面、今後は各所属チームにおいて徹底的に個人技能を高めパワーアップを心掛けて個を太くすれば必然的に代表チームも強固になり、直ぐに世界の壁は破れ世界と互角に戦えると確信を得ました。

確かに、ここ数年ハンドボール界が取り組んできたナショナルトレーニングシステム（NTS）ほか各カテゴリーの強化施策により着実に世界レベルまで近付いてまいりましたが、未だに世界の壁はおろかアジアにおいても韓国に勝てず、男子においては中東諸国の台頭を許し世界選手権に出場すら出来ない状態であります。

日本ハンドボール協会は 4 年後のリオに向け、更には 8 年後のオリンピックに向けて人心一新の決意で臨み、速やかな抜本的強化体制の構築を急がなければなりません。引き続き代表チームに対しご支援とご協力をお願い申し上げます。

■選手団名簿

役職	名前	ふりがな	所属
団　長	市原　則之	いちはら　のりゆき	（財）日本ハンドボール協会
副団長	西窪　勝広	にしくぼ　かつひろ	（財）日本ハンドボール協会
監　督	黄　慶泳	ふぁん　きょんよん	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	栗山　雅倫	くりやま　まさみち	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	小藪　憲次	こやぶ　けんじ	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	高野内　俊也	たかのうち　としや	（財）日本予防医学協会
ドクター	佐久間　克彦	さくま　かつひこ	熊本赤十字病院
分　析	小笠原　一生	おがさわら　いっせい	（財）日本ハンドボール協会

No.	背番号	名前	ふりがな	所属	生年月日	身長	出身校	国際試合	
								試合数	得点
1	2	黒木　聡子	くろき　さとこ	ソニーセミコンダクタ	1986.11.01	163	筑波大学	18	12
2	3	高橋　恵	たかはし　めぐみ	ソニーセミコンダクタ	1986.07.14	160	筑波大学	30	78
3	4	上町　史織	かみまち　しおり	北國銀行	1981.01.21	165	国士舘大学	37	158
4	5	伊藤　亜衣美	いとう　あいみ	三重バイオレットアイリス	1983.05.07	170	武庫川女子大学	35	22
5	6	植垣　暁恵	うえがき　あきえ	広島メイプルレッズ	1984.07.25	172	大阪教育大学	74	214
6	8	小野澤　香理	おのざわ　かおり	北國銀行	1979.07.25	170	国士舘大学	57	74
7	10	藤井　紫緒	ふじい　しお	オムロン	1985.03.27	165	東京女子体育大学	75	361
8	11	山野　由美子	やまの　ゆみこ	ソニーセミコンダクタ	1988.07.27	168	筑波大学	11	13
9	12	毛利　久美	もうり　くみ	三重バイオレットアイリス	1985.01.17	169	福岡教育大学	21	0
10	13	若泉　春香	わかいずみ　はるか	北國銀行	1987.05.09	172	大阪教育大学	15	5
11	14	巻　加理奈	まき　かりな	オムロン	1982.07.13	168	熊本市立大学	45	32
12	16	田代　ひろみ	たしろ　ひろみ	北國銀行	1982.03.15	180	四天王寺高校	44	1
13	17	東濱　裕子	ありはま　ゆうこ	オムロン	1984.08.18	178	陽明高校	87	229
14	20	石立　真悠子	いしたて　まゆこ	オムロン	1987.01.18	165	筑波大学	35	70
15	21	若松　里佳	わかまつ　りか	北國銀行	1984.06.10	160	高岡向陵高校	17	18
16	22	藤間　かおり	ふじま　かおり	オムロン	1982.07.06	173	大分鶴崎高校	32	0
17	23	早船　愛子	はやふね　あいこ	三重バイオレットアイリス	1980.01.23	166	筑波大学	85	261
18	28	永田　しおり	ながた　しおり	オムロン	1987.10.24	171	福岡女子商業高校	15	21

■星取り表

	トーナメント1	MNE	FRA	ROU	JPN	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	モンテネグロ (MNE)		22 ○ 20	34 ○ 23	30 ○ 24	3	3-0-0	86	67	19	6
2位	フランス (FRA)	20 ● 22		24 ○ 19	30 ○ 17	3	2-0-1	74	58	16	4
3位	ルーマニア (ROU)	23 ● 34	19 ● 24		28 ○ 26	3	1-0-2	70	84	-14	2
4位	**日本 (JPN)**	24 ● 30	17 ● 30	26 ● 28		3	0-0-3	67	88	-21	0

	トーナメント2	ESP	CRO	NED	ARG	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	スペイン (ESP)		22 ● 23	28 ○ 24	31 ○ 15	3	2-0-1	81	62	19	4
2位	クロアチア (CRO)	23 ○ 22		28 ● 29	31 ○ 21	3	2-0-1	82	72	10	4
3位	オランダ (NED)	24 ● 28	29 ○ 28		30 ○ 21	3	2-0-1	83	77	6	4
4位	アルゼンチン (ARG)	15 ● 31	21 ● 31	21 ● 30		3	0-0-3	57	92	-35	0

	トーナメント3	RUS	DEN	TUN	DOM	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	ロシア (RUS)		27 ○ 20	33 ○ 20	41 ○ 17	3	3-0-0	101	57	44	6
2位	デンマーク (DEN)	20 ● 27		28 ○ 24	38 ○ 21	3	2-0-1	86	72	14	4
3位	チュニジア (TUN)	20 ● 33	24 ● 28		29 ○ 20	3	1-0-2	73	81	-8	2
4位	ドミニカ (DOM)	17 ● 41	21 ● 38	20 ● 29		3	0-0-3	58	108	-50	0

ロンドンオリンピック世界最終予選について

大会の準備

※直前合宿

＊国内合宿：

2012 年 3 月 26 日（月）―4 月 10 日（火）ANTC

2012 年 4 月 24 日（火）―5 月 6 日（日）ANTC

（強化ポイント）

①トータルフィットネス強化（予選で３連戦の厳しい戦いを認識）

②対戦国ビデオ分析＆情報収集

③戦い方の確立（戦術・戦略）

④国内男子高校チームとの練習ゲームの中で大型対策＆チームの戦い方を確認

＊海外遠征：

2012 年 5 月 7 日（月）―5 月 22 日（火）Hungary. Austria

（強化ポイント）

①海外の強豪代表チーム、クラブチームとの練習ゲームの中で、国内と海外の試合感覚のずれを修正する。

②大型対策＆チームの戦い方の確認（戦術、戦略の再確認）

大会について

日　程：2012 年 5 月 25 日 - 27 日

開催国：France. Lyon

※参加国　Japan. France. Romania. Montenegro

第１戦（敗）

日本　24（13-14、11-16）30　モンテネグロ

（試合前ミーティングポイント）

①４年間かけてチームを作ってきた。チームのスタイルは人が動く、ボールが動くハンドボール。そのためにはスピード、スタミナ、テクニックが必要である。

②ヨーロッパ選手はパワーと個人技がある。しかし、われわれには世界一の気力と組織力がある。どの状況でもその武器を失わないようにすること。

③オリンピックに出場してもおかしくない、恥ずかしくないチームに成長したと確信している。それを過程の中で証明してきた。残っているのは結果のみ。勇気と自信を持って戦う。

④ゲームストラクチャーをしっかり理解すること＆徹底して実行。

・守りのハードワーク（４つの守りシステムで対応）

・チェンジオブペースの中で PV を起点とした判断

・３つのパターンをしっかり組み立て、粘り強く攻める（アウトスペースの攻め）

・攻撃的な守りから早いファウルで阻止すること

⑤スターティングメンバー

田代・藤井・早船・永田（植垣と攻防チェンジ）・東濱・小野澤・若松

（評価＆課題）

①前半の前線でプレスをかけたときの PV 守りの連係ミスからの失点

②後半中盤から２～３点離れていく時間帯でのゲームマネージメント

・攻撃の攻める時間とテンポが速くなっていた（メンタルスタミナ、判断力の低下）

・守りでサイド勝負が追い込みからの勝負ではなくなっていたこと

第２戦（敗）

日本　17（7-13、10-17）30　フランス

（試合前ミーティングポイント）

①自分たちのペースで試合を運ぶ。（試合の一定のテンポを保つこと。戦況が追っかける状況であっても攻撃をじっくり時間をかけて攻めること）

②守り勝つチームスタイル＆戦い方の再認識＆表現。勝負として失点を 23 点前後で抑えてロースコアの試合展開をする。失点の場所はアウトスペース＆ロングシュート（４つの守りシステムを準備）。

③攻撃では牽制＆高くラインが上がってきた時の攻め方の共有。

④フランスは世界のトップチームである。そこを倒すことに戦いの意味があるし、弱いチームでも勝つことがあるのがスポーツの面白さである。そのために準備してきた。その基準はどのチームであっても同じことであるし、どのチームでもその挑戦を阻むことはできない。

⑤スターティングメンバー

田代・藤井・早船・永田（植垣と攻防チェンジ）・東濱・小野澤・若松

（評価＆課題）

①セット守りでは相手を慌てさせることが出来た。しかし、全体の失点の大半は攻撃の失敗から逆速攻での失点であっ

日本代表女子チーム監督　黄　慶泳

た。

②攻撃でフィニッシュの精度が低かった。フェイント突破してからのシュートの確率＆ポストを絡んだ攻撃が潰されていた。

③速攻でのコートバランスと一線目との距離感が近かったので裏のスペースが使いきれなかった。

第３戦（敗）

日本　26（10-18、16-10）28　ルーマニア

（試合前ミーティングポイント）

①チームはオリンピックの夢が切れてしまったけど、日本の新たな挑戦は今日からまたスタートしなければならない。われわれはそのスタートをしっかり切らなければならない義務がある。

②世界と戦うためのチームの戦略をもう一度共有して最後まで作り上げたものを表現する。（守り勝つ＆走り勝つ）

③守りの戦術としては、バックプレーヤー３人が右利きであるので利き腕を中心に守りながら逆方向に追い込む。６：０からクロスアタック、またライトバックに対して牽制から色々と変形しながら混乱させるシステムを準備する。

④攻撃に関しては大きい相手に対して大きいクロスの中で、フェイント突破を果敢に狙うこと。（失敗したものも自分たちの武器であることを強く認識）

⑤スターティングメンバー
藤間・上町・石立・東濱・永田・巻（藤井と攻防チェンジ）・早船

（評価＆課題）

①前半の守りで裏のスペースでの PV 失点＆低いラインからのロングシュート失点で的が絞れなかった。そして、攻撃で中央スペースでの無理な攻撃から逆速攻の失点が多かったことが大きな敗因でもある。

②後半の守りの修正から速攻のリズムも出てきて早い時間帯で追い上げのムードになり、最後まで良い試合運びが出来た。諦めないで意地を見せてくれたことは評価できる。

今後の取り組み

オリンピック出場を目標として４年間かけてチームを作ってきた。

チームスタイルとしては、人が動く、ボールが動くハンドボールを展開すること。それを表現するためにはスピード（動くスピード、考えるスピード、プレーの選択のスピード）、スタミナ（フィジカル＆メンタルスタミナ）、テクニック（ゲームマネジメント力）が必要だということを常に認識させながら展開してきた。

戦略としては、世界と戦うためにハイスコアの点の取り合いの試合ではなくて如何にロースコアで勝ちゲームができるかを考えていた。そのデッドラインを失点 22 ～ 23 点前後で守りきって１点差勝ちゲームをすることを理想として考えた。

そして何より個々の力（体格・経験）では世界が日本より上なので、チームの組織力で勝つ方法を探しながらチームを強化してきた。

４年間の過程の中では守りの完成度が上がっていきながら勝ちゲームをした経験もあれば、得点力に伸び悩み勝ちきれない試合も何度もあったのは事実である。

オリンピックアジア予選では決勝で韓国に 22 対 26 で負け、今回の世界予選では対モンテネグロ戦で 24 対 30、フランス戦でも 17 対 30、ルーマニア戦は 26 対 28 で負けていた。結果として自分が考えていた勝ちゲームのデッドラインを超える失点になっていたことが分かるし課題として残った。失点の多さの原因として、守りだけを考えたら相手を混乱させることで失点を限定させることが出来ても、攻撃でフィニッシュと判断ミスから逆速攻による失点が増えたことが問題であったと判断する。

今後は組織力をもっと強く発揮するために何か違う戦い方があったのか、自由の中で個の力を強く活かす戦い方が良かったのか、個の力を伸ばすためには根本的にどう強化して行くか等を検証、検討する必要があると考える。

お　礼

４年間かけて沢山のチーム及び方々に大変お世話になりました。関係者の皆様方に心より感謝申し上げますと共に、結果としてオリンピック切符を持ってご報告できなかった事を深くお詫び申し上げます。

今回ロンドンオリンピック出場は実現できなかったですが、女子代表チームは次のオリンピックに向けて新たなスタートを強く踏み切らなければならないと考えます。

今後とも引き続き女子代表チームに多大なるご支援、ご声援いただきます様にお願い申し上げましてお礼と致します。本当にありがとうございました。

日本戦 戦評

■1日目：5月25日（金）

日本　24（13 － 14, 11 － 16）30　モンテネグロ

ロンドンオリンピック世界最終予選初戦の相手はモンテネグロ。

前半、日本は植垣のロングなどで幸先よく2対0とし好調なスタートを切る。しかし相手も体格を活かしたプレーで応戦し中盤まで1点を争う展開が続く。15分過ぎ、日本はシュートミスなどで相手に流れを持っていかれ4連取を許し18分過ぎ8対11とリードされる。終盤、日本が2連取などで差を縮め13対14で折り返す。

後半、1人少ない相手に対して得点することができず、逆に失点し嫌な流れを作ってしまう。しかし若松の活躍により流れを引き戻すと7分過ぎ18対17とリードを奪う。ここで波に乗りたい日本ではあったが、退場者を出しリズムが途絶えてしまい、ここから6連取を許し14分過ぎ18対23と離されてしまう。踏ん張りたい日本だったが互いに点を取り合う形となり、連続得点が奪えない日本。点差は縮まらず24対30で終了。

【得 点】藤井；8点、東濱・若松；5点、石立；2点、上町・植垣・早船・永田；1点

■2日目：5月26日（土）

日本　17（7 － 13, 10 － 17）30　フランス

ロンドンオリンピック世界最終予選2戦目は開催地地元フランスとの対戦。

前半、立ち上がりフランスの堅いDFをなかなか崩せない日本、一方フランスは着実に得点を重ね7分過ぎ0対5とされる。タイムアウトを取り落ち着きたい日本だったが、中盤もフランスペースで試合は進み24分過ぎには3対12と大きくリードを奪われる。終盤日本もペースを掴み4連取し7対12と追い上げるが最後にシュートミスから逆速攻につながれ前半を7対13で折り返す。

後半、4分過ぎまで互いに点を取り合い5点差を行き来する緊迫した展開が続く。しかし5分過ぎから6連取を許してしまい10対21とまた大きくリードされる。中盤以降、日本も何とか踏ん張り得点するが、連続得点がなかなか奪え

日本戦 戦評

ず点差は縮まらず、結果17対30で終了。

【得 点】上町；5点、藤井・永田；3点、東濱・早船；2点、高橋・石立；1点

■3日目：5月27日（日）

日本 26（10－18，16－10）28 ルーマニア

ロンドンオリンピック世界最終予選3戦目はルーマニアとの対戦。

前半立ち上がり日本は、機動力を使ったハンドボールを展開し好調なスタートをきった。ルーマニアも徐々に日本OFに対応してきて中盤まで一進一退の攻防が展開される。しかし、20分過ぎから日本の足が止まりだし、ルーマニアにリズムを持っていかれ3連続失点をし、21分過ぎ8対12とされる。その後1点返すが、23分から5連続失点をし一気に点差をつけられ10対18で前半を折り返す。

後半、なんとか挽回したい日本は序盤から積極的なDFでルーマニアの足を止め速攻につなげる理想的な展開に持ち込

み、徐々に点差を詰める。連続得点を繰り返し21分に22対22の同点に追いつき24分には23対22と逆転に成功する。しかし25分過ぎから3連続失点をしてしまい、24対26と2点差をつけられた。終盤は互いに点を取り合う形となり26対28で終了。

【得 点】藤井；7点、東濱・若松；4点、石立・早船；3点、上町・植垣；2点、永田；1点

2012 ロンドンオリンピック IHF 世界最終予選 男子

日本代表男子チーム団長　川上 憲太

日本にとってロンドンオリンピック出場の最後のチャンスとなった世界最終予選は、第３グループとしてクロアチアの都市ヴァラジュディンで４月６日～８日の３日間行われました。日本・クロアチア・アイスランド・チリの４カ国で戦い、２位以内に入れば念願のオリンピック出場が叶う大会となりました。開催国・クロアチアは旧ユーゴスラビア以来大変日本がお世話になった国で、沢山のハンドボール関係者が永年に亘って交流を深め、日本のハンドボールの発展に大きな影響を与えてくれました。大会は簡素な中にスムーズに運営され、さすがに手慣れた感が強く、IHF からはロカマス第一副会長、マズーク常任理事が大会責任者として担当し、問題なく進められました。

日本代表は事前にデンマークで合宿、気力体力充分なチームコンディションで４月３日にクロアチア入り、日に日にムードも高まり万全な状態で試合に挑みました。しかし世界選手権５位のクロアチア、同大会６位のアイスランドの壁は厚く、クロアチア戦の前半を２点差で折り返した迄で、その後はオリンピック出場をかけた圧倒的なパワー・スピード・テクニックの前に力及ばず３位という結果に終わり、またしても悲願のオリンピック出場ならずという結果に終わってしまいました。

日本は前回の世界選手権でオーストリアを破り、今一歩のところで決勝ラウンドには進めませんでした。結果世界 16 位でした。その後、ヨーロッパ遠征を重ね、アジア予選に挑み２位の結果となり、最終予選に廻りました。

この敗戦から学ぶことは、日本がオリンピック出場そして世界選手権に常時出場を果たす為には、すべての要素において世界のベスト８の力を付けることに専念すること、フィジカル・パワープレー・パワーディフェンス・シュートスピード・シュートテクニック・コンビネーション等に国内のプレーで満足しない、妥協しないで追い込んでいく強化が求められます。この実力を付けてアジアで戦わなければ目的は達成できません。「ネバーフォーゲット　ヴァラジュディン」の継続です。

「世界を奪い返す―アジア№１に返り咲く―」のもと、酒巻監督以下スタッフ・選手一丸となった４年間でした。この積み上げたものを礎として、また新しい全日本の戦いが始まります。尋常な考え方では目的は達成できない事を改めて肝に銘じた大会となりました。

最後にこの４年間、全国の皆様に頂いた沢山のご支援・ご声援・ご理解・ご協力等を思う時、なんと御礼を言ってよいか言葉につくせません。誠にありがとうございました。

日本代表はまた新たな目的に向かって始動してまいります。どうか皆様、これまで以上の厳しく温かいご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

日本代表男子チーム監督　酒巻 清治

昨年11月韓国でのアジア選手権においてロンドンオリンピック出場権の獲得はならず、国際連盟管理下の最終予選にまわることになった。日本リーグプレーオフ後直ちに招集、短期間ではあるもののデンマークでの強化合宿を経てクロアチア・ヴァラジュディンに乗り込んだ。選手たちのコンディションはシーズン終了後ということもあり、小さな故障を抱えた選手が多かったが、ナショナルトレーニングセンターでの合宿をフィジカルコンディションのリカバリーとチーム戦術の落とし込みに時間を費やし、チーム強化を図った。選出メンバーに関しては、11月のアジア選手権からポストの森（大崎）と藤田（車体）を交代、海道を再招集した。

デンマークでの強化合宿は通常、トレーニングマッチを中心に組まれるが、今回は全ての選手に高さとパワーを経験させるべく、エリートリーグクラブとの合同練習を組みこんだ。

高さとシステムを変化させるDFについては手ごたえを感じ、攻撃面では相手のDFシステムを６：０と予想しポイントとなるポストとのコンビネーションからフリースペースをクリエイトすることを中心に精度を高める準備を施した。

４月３日にクロアチア入り、試合会場を使用しながら最終調整を行った。大会会場は前回の世界選手権で建設されたアリーナを使用、ボランティアの献身的なサポートや宿泊・移動のホスピタリティーにはクロアチア協会のプライドが伺われ、安全かつ公平に大会が運営された。

■４月６日　対クロアチア戦

４年前の最終予選同様地元クロアチア。直前の欧州選手権３位であり、過去の実績からも今大会の優勝候補である。しかし直前までの国内リーグやチャンピオンズリーグの影響からゲームメーカーのイバノ・バリッチが故障欠場の情報あり。試合開始からバリッチ不在の影響がクロアチアの攻撃に影を落とした。日本は直前のデンマーク遠征で自信を深めていたDF力で相手の大型バックプレーヤー陣の抑え込みに成功。

特にラインプレーヤーに仕事をさせなかった。しかし、前半最後の攻防がこの試合の明暗を分けた。終了間際の退場により後半スタートの攻防において安全圏に逃げ込まれ、その後点差をつめようとの焦りから単調な攻撃を繰り返し、相手の速攻を許す悪循環を繰り返し敗戦した。

■４月７日　対アイスランド戦

日本にとっての最大の難関であるアイスランドとの対戦。試合スタートからアイスランドの攻守の切り替えに劣勢を強いられた。ベテランのステファソンを中心にブンデス得点王のシグルドソン、欧州界では注目の若手・パルマソン、強さと上手さを兼ね備えたポストのグンナソンらにボールを集められ、攻撃→戻り→防御の「→」部分でのすきを突かれ、試合の主導権を握られた。後半に入り、攻撃面で落ち着きを取り戻し、リズムをつかみかけたものの前半での失点が響き敗戦。ロンドンオリンピックへの道が閉ざされた。

■４月８日　対チリ戦

パンアメリカ大陸３位。デンマーク遠征では４位のグリーンランドに苦戦を強いられていたため、最終戦を勝利して帰国したい日本にとっては容易い相手ではない。大型ポストをいかに抑え込むかがこの試合のキーポイントであった。バックプレーヤーの身長とテクニックを考慮し、６：０DFスイッチでスタート。GK甲斐の再三による好セーブで助けられる局面はあったものの、クロアチア・アイスランド戦で問題を抱えたポストを完全に封じ込める事が出来た。攻撃は今大会に入り徐々に向上はしてきており、意図的に相手DFを操作しより確率の高い組み立てを展開する意図は見られたが、十分ではなかった。

GKを含めた防御により安定した試合運びで勝利を収めた。

４年間にわたり代表チームの強化を進めてまいりましたが、アイスランドに敗戦し、全ての挑戦は終了しました。これまで代表チームの活動に絶大なるご声援を頂き誠に有難うございました。私の力不足により皆さんの期待に応えられなかった事が大変残念でなりません。

しかし、今大会の最終予選に向かう選手たちの集中力は非常に高く、世界のトップに勝負を挑み今後の日本に何が必要なのか身を持って感じてくれたものと思います。今後彼らが日本のハンド界を牽引し日本全体のレベルアップに努めてくれる事を願っています。代表チームは次の目標に向かって前進します。今まで以上のサポートをお願い致します。

４年間大変お世話になりました。有難うございました。

2012 年ロンドン五輪ハンドボール競技開催情報

○ロンドンオリンピックにおけるハンドボール競技は、2012 年 7 月 28 日から 8 月 12 日にかけて開催されます。会場は、オリンピックパークのカッパー・ボックスと、バスケットボール・アリーナにて行われます。

新しいバスケットボール・アリーナは今までに構築された最大の会場の一つです。男子の準々決勝、女子の準決勝以降の会場となる予定です。

2011 年 5 月に竣工したカッパー・ボックスは、再使用の銅を用いた、ユニークで環境に優しいアリーナです。男子の予選ラウンドと、女子の準々決勝までの会場となる予定です。

バスケットボール・アリーナ

カッパー・ボックス

カッパー・ボックスのアリーナ

○ 5 月 30 日に、国際ハンドボール連盟は、2012 年ロンドン五輪ハンドボール競技の組み合わせ抽選会を実施しました。

男子：グループ A
フランス
スウェーデン
アイスランド
イギリス
アルゼンチン
チュニジア

女子：グループ A
モンテネグロ
ロシア
クロアチア
イギリス
ブラジル
アンゴラ

男子：グループ B
スペイン
クロアチア
ハンガリー
セルビア
デンマーク
韓　国

女子：グループ B
ノルウェー
スペイン
デンマーク
フランス
スウェーデン
韓　国

男女各国の 12 チームは、6 チームの 2 つのグループに分けられ、各チームは、グループ内の他のすべてのチームと試合を行います。勝ち点により順位が決まり、各グループの上位 4 つの 8 チームが、決勝トーナメントの準々決勝へと進みます。

男子日程	
7 月 29 日	予選ラウンド
7 月 31 日	
8 月 2 日	
8 月 4 日	
8 月 6 日	
8 月 8 日	準々決勝
8 月 10 日	準決勝
8 月 12 日	3 位決定戦
	決勝

女子日程	
7 月 28 日	予選ラウンド
7 月 30 日	
8 月 1 日	
8 月 3 日	
8 月 5 日	
8 月 7 日	準々決勝
8 月 9 日	準決勝
8 月 11 日	3 位決定戦
	決勝

平成 23 年度

第 7 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

第 7 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会は、平成 24 年 3 月 24 日（土）～ 28 日（水）の 5 日間、氷見市ふれあいスポーツセンター、富山県立氷見高等学校第一体育館、富山県立有磯高等学校第二体育館の３会場で行われた。男子は大分市立滝尾中学校（大分県）、女子は守谷市立けやき台中学校（茨城県）が、それぞれ初優勝を飾った。

最終順位

■男子

優勝：大分市立滝尾中学校（大分県）

準優勝：豊中市立第一中学校（大阪府）

３　位：氷見市立南部中学校（開催地）

　　　　江戸川区立鹿骨中学校（東京都）

■女子

優勝：守谷市立けやき台中学校（茨城県）

準優勝：氷見市立十三中学校（富山県）

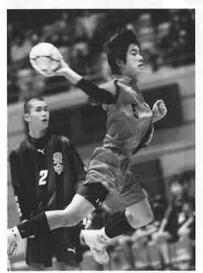
３　位：福井市光陽中学校（福井県）

　　　　浦添市立仲西中学校（沖縄県）

写真提供は全て、スポーツイベント社（滝尾中学校の集合写真は除く）

男子優勝　大分市立滝尾中学校（大分県）

大分市立滝尾中学校男子ハンドボール部監督　上杉 洋一

滝尾中学校男子ハンドボール部は、７年前の平成17年４月に、前任の佐藤晴彦教諭が保護者の要望にこたえ創部しました。当時は生徒数の急激な増加によりグラウンド等にもプレハブ校舎がたち、練習場所の確保すら難しい状況でのスタートではありましたが、下郡小学校の経験者や、中学からはじめる部員も多く、狭いグラウンドでは練習できずに、高校や小学校の体育館やコートを借りて練習しました。小学校の指導者が一貫して教え込んでくれた「走るハンドボール」に磨きをかけ、厳しい練習環境の中でも一生懸命に努力し、コツコツと伝統をつくってきました。そのように土台ができた学校へ、平成23年４月に異動することになり、一番に取り組みたかったことは、中学校に練習場所を作るということでした。40ｍのコートを中学校のグラウンドに作ることができれば、選手は今以上に伸びるのではないか。一生懸命に頑張っている姿を、教師や友人が認めてくれれば、やる気も増すのではないかと考え、他の部活の先生にお願いして、ハンドボールコートを何とか作ることからのスタートでした。

現チームは昨年度からのレギュラーも多く、小学校時には日本一を経験している選手がいます。また、体格にも恵まれ大好きなハンドボールを、きついことでも楽しんで練習することができる素晴らしい選手たちです。休みの日は高校生の練習試合を見に出かけたり、みんなで集まりDVDを見て研究するなど、ハンドボールというスポーツを心から愛しています。また、昨年度のJOC大分県選抜チームに現３年生が４名選出され、より高いレベルでの経験も、大きくチームの力になっていることはまちがいありません。

今回の大会では、初戦から決勝までの６試合でたくさんの事を学びました。全国に出てくるチームのすごさに驚くばかりで、滝尾中は小学校時代にハンドボールの基礎を身につけて進学してくる生徒が多いのですが、対戦したチームの多くは中学から始め、ボールの投げ方やルールなど一からの指導で勝ち抜き、この場にいることに、これまでの指導、選手の努力のすばらしさを感じました。特に開催地代表氷見南部中学校の組織力、愛知県代表はとり中学校のディフェンスシステム、大阪府代表豊中第一中学校のオフェンスのステップ等、徹底して練習したことが一目でわかり、感動しました。

今回の全国優勝という栄光は、私たちの誇りではありますが、夏の九州大会、全国大会の出場権を得ることは簡単なことではありません。もう一度全国の舞台で彼らにプレーさせたいと願っています。チームの目標は「日本一のディフェンス」そして、「公式戦無敗での引退」です。壮大な目標ですが、少しでも目標に近づけるように日々練習に取り組んでいます。

最後になりましたが、大会関係者の皆様、富山県、氷見市の皆様、応援していただいた皆様、そして、陰になり支えていただいた皆様方に心より感謝し、お礼の言葉にかえさせていただきます。

女子優勝　守谷市立けやき台中学校（茨城県）

茨城県守谷市立けやき台中学校女子ハンドボール部顧問　横尾 香織

４年前、８人で活動を始めた女子ハンドボール部。十分な道具もない私たちに、ボールや練習着、松ヤニ、ボールかごを寄付してくださったたくさんの方々のおかげで活動を続けることができました。また、ユニホームもなく体操服で試合に参加していたとき、県のハンドボール専門部長の中里薫先生が、茨城選抜のユニホームを譲ってくださり子供たちが大喜びしていたことを昨日のことのように覚えています。

また、指導者として未熟な私にアドバイスをくださった高校時代の恩師である大村久先生や創部２年目にけやき台中に赴任された増田徹先生、立ち上げ当時手作りのボールかごを作ってくださった黒川孝男先生、ハンドボールにならないチームを練習試合に誘ってくださった水海道中学校の関博隆先生、全国レベルの部活動を間近で感じ刺激を与えてくれた男子ハンドボール部と大原雅広先生、創部から子供たちを一番近くで見守り続けてくださる杉本コーチ、また、関東の先生方の温かいご指導のおかげで、今回子供たちは力を出し切り一つの結果を残すことができました。この場をお借りして心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

現在部員は31名。初代、２代目と土台を築いてくれた子供たちと保護者の方々へ感謝の気持ちを忘れず、夏の大会に向け日々練習に励んでいます。３代目の子供たちが笑顔で最後の夏を終えることができるよう努力して参りたいと思います。

北陸電力カップ

第９回東アジアハンドボールクラブ選手権

男子星取表

順位		斗山	大同	江蘇	北電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	斗山（韓国）		25 ○ 23	28 ○ 18	35 ○ 25	3	3	0	0	88	66	22	6
2.	大同特殊鋼（日本）	23 ● 25		24 ○ 23	30 ○ 25	3	2	0	1	77	73	4	4
3.	江蘇省（中国）	18 ● 28	23 ● 24		25 ○ 24	3	1	0	2	66	76	-10	2
4.	北陸電力（日本）	25 ● 35	25 ● 30	24 ● 25		3	0	0	3	74	90	-16	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

女子星取表

順位		北國	ソウ	オム	上海	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北國銀行（日本）		30 ○ 24	21 ○ 20	26 ○ 21	3	3	0	0	77	65	12	6
2.	ソウル市庁（韓国）	24 ● 30		29 ○ 26	34 ○ 21	3	2	0	1	87	77	10	4
3.	オムロン（日本）	20 ● 21	26 ● 29		28 ○ 20	3	1	0	2	74	70	4	2
4.	上海（中国）	21 ● 26	21 ● 34	20 ● 28		3	0	0	3	62	88	-26	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

表彰項目	男子	女子
最優秀選手賞（MVP）	LEE JAE WOO（斗山）	田代　ひろみ（北國銀行）
ベストセブン	JEONG YI KYEONG（斗山） LEE JAE WOO（斗山） LEE DONG MYUNG（斗山） 棚原　良（大同特殊鋼） 野村　喜亮（大同特殊鋼） HAO KEXIN（中国） 赤塚　幸治（北陸電力）	上町　史織（北國銀行） 石野　実加子（北國銀行） 田代　ひろみ（北國銀行） LEE MI-KYUNG（ソウル市庁） GWON HAN-NA（ソウル市庁） 東濱　裕子（オムロン） Sha Zhengwen（上海）
最優秀監督賞	LEE SANG SUP（斗山）	荷川取　義浩（北國銀行）
最優秀レフェリー賞	島尻真理子（日本）、太田智子（日本）	

北陸電力カップ第９回東アジアハンドボールクラブ選手権を振り返って

福井県ハンドボール協会理事長　**志々場 修二**

2008年の第５回大会（熊本）以来の日本開催となる第９回東アジアクラブ選手権大会を、４月20日（金）から22日（日）に福井県営体育館（福井県福井市）において開催しました。大会名称は、北陸電力株式会社の特別協賛をいただき、「北陸電力カップ第９回東アジアハンドボールクラブ選手権」となりました。男子は、韓国・斗山（ドゥサン）、中国・江蘇省（こうそしょう）、日本・大同特殊鋼、北陸電力、女子は、韓国・ソウル市庁、中国・上海、日本・オムロン、北國銀行の各国代表男女各４チームがリーグ戦により東アジアのトップクラブチームの座を競いました。

会場には、プレーオフのようにスポーツコートを敷き、装飾を施し、音響設備も追加し国際大会にふさわしい雰囲気のなか、連日の熱戦の結果、男子は斗山、女子は隣県石川の北國銀行が優勝しました。北國銀行はチーム状態が良くない状況で、宿敵オムロンにもリベンジを果たし歓喜の初優勝を勝ち取りました。地元の北陸電力は白星をあげることはできませんでしたが、チャレンジ精神あふれるプレーが随所に見られ、観客席は大いに沸き盛り上がりました。

大会運営面では、初日、競技役員の役割分担の不徹底や意識の持ち方の違いによりいくつかの問題点がありましたが、日本リーグ委員の皆さんと共にミーティングを行い助言を得て、各担当部署での自発的活動を促したところ問題点は解消していきました。当たり前のことですが、有料試合を開催し観客を迎えるということは、補助役員を含めた競技役員全員に同レベルの高い接遇の意識が必要であることを痛感しました。２日目以降は、関わった役員が充実感を味わえるほどの良い運営ができたと思っています。県協会としては、平成30年の福井国体開催に向け、この面で大変良い経験をさせていただき、役員のスキルアップにつながったと感じています。

県内ではハンドボールへの関心は高く、新聞、テレビなどのメディアも大きく本大会を取り上げていました。北陸電力、北國銀行の協力もあり観客動員数はほぼ目標値に届き、レベルの高いゲームを観戦することによる普及と競技力向上への成果を得ることができました。

最後に、大会開催にあたりご支援、ご協力をいただきました日本協会、日本リーグ機構、関係団体の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

東アジアクラブ選手権を振り返って

大同特殊鋼フェニックスGM　秋田 康明

日程・戦績等の詳細は他の紙面に譲り、ある意味ハンドボールの素人である私の感じたことを率直に書き綴ってみたいと思います。私がGMに就任後、弊社ハンドボール部が東アジアクラブ選手権に参加したのは第6回（2009年）、第7回（2010年）、第9回（2012年）の都合3回、内2回（第6回、第9回）の大会にGMとしてベンチに入りました。簡単に総括すれば、いずれも韓国代表クラブチームには負け、中国代表クラブチームには僅差の勝ち、又は引き分けという結果でした。

第6回大会では韓国斗山の尹京信選手、朴重奎選手というまさにワールドクラスの迫力に圧倒されました。今大会は彼らのような目を見張る選手は不在のようでしたが、やはり韓国の巧さに屈する結果に終わりました。中国代表クラブチームに関してはおそらく大部分のハンドボールファンが感じたことと同様に、あれだけの体格・運動能力など潜在能力を持ちながらなぜ勝てないのか？に尽きると思います。これは中国代表のボールゲーム全般に見られる（バレーボール、サッカー…）傾向とも言えますが、将来的に大きな脅威となることは間違いないでしょう。また今回初参加の北陸電力も負けはしましたが、地元ファンの大声援のなかいずれの試合も今持てる力を存分に発揮され、対戦相手を大いに苦しめました。

今大会を振り返ってみると、「大事な場面でイージーミスをしない」という基本中の基本の差が勝敗を分けたと感じています。パスやキャッチング、フリーシュートの精度向上がフェニックスはじめ日本代表チームに必要と感じました。この基本を高いレベルで維持できることこそハンドボールの巧さと強さに直結すると確信しています。

最後に今大会のスポンサーとしてご支援頂きました北陸電力の皆様、運営にご尽力いただきました日本ハンドボール協会、東アジアハンドボール連盟、日本ハンドボールリーグ機構並びに地元ハンドボール協会をはじめとする多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

北陸電力カップ第9回東アジアクラブ選手権に出場して

北陸電力ブルーサンダーGM　川島 英樹

この度、はからずも当社チームが開催地枠として「北陸電力カップ第9回東アジアハンドボールクラブ選手権」に出場させていただきました。

昨季の日本リーグで1勝もできなかったチームが、果たして日本、韓国、中国のトップチームを相手にまともな試合が出来るのだろうか、社内の応援体制はどうすべきか、当社の冠大会であり地元開催となる以上、大会を成功裏に収めなければならないというプレッシャーもあり暗中模索で臨んだ大会でありました。

試合結果は、3戦全敗でしたが、3日間で延べ1,000人を超える社員の皆さんや多くの地元ファンの皆さんの声援もあり、選手達の想像以上の試合展開に私自身胸が熱くなった次第であります。

特に中国戦では、身長で大きく勝る相手に終盤まで当社チームがリードするという白熱したゲームでした。終了間際に相手チームにリードを許し、惜しくも勝利することができませんでしたが、応援していただいた皆さんから「よく頑張った。感動した」と賞賛のお言葉をいただいたことが大きな喜びであり、また、選手達も強豪相手に互角に戦えたという自信がついた大会でもありました。

当社はこれまで、地域貢献の一環として小・中学生を対象にハンドボール教室を行うなど、ジュニア層の選手育成に力を注いできたこともあり、子供達に国際大会という大舞台を間近で観てもらうことが出来、更には感動を与えることが出来たことは良かったと思っております。

また、多くのチームOBが大会運営にサポート役として携ることが出来、国際大会のノウハウを蓄積できたことなど、一石三鳥で収穫の多い大会であったと感謝しております。

最後になりますが、応援してくださったファンの皆様や、（財）日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構をはじめとする関係各位に心より感謝を申し上げ、お礼とさせていただきます。有難うございました。

第９回東アジアクラブ選手権に出場して

北國銀行ハンドボール部GM　村上 良平

第９回東アジアクラブ選手権大会の福井開催にあたり、ご尽力頂いた東アジアハンドボール連盟並びに日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構、そして、地元福井県ハンドボール協会の関係各位に心より御礼申し上げます。

日本・韓国・中国のチャンピオンチームが集い、優勝を争う今大会には地元開催枠での出場となり、リベンジを誓っての大会入りとなりました。また、チームを語るにあたり欠かせない存在であった、チーム創設時からのオーナーでもある米谷半平オーナーが３月28日に逝去なされ、そのお別れの会が４月23日に執り行われることになり、是が非でも優勝報告したいとの思いが強くありました。勿論、３カ国のチャンピオンチーム相手ですので、厳しい大会になる事は承知しておりましたが、スタッフ・選手共に米谷オーナーへの恩返しを胸に全力で戦ってくれました。

初戦の相手は、韓国チャンピオンのソウル市庁。

立ち上がりは固さも見られましたが、徐々に落ち着きを取り戻し、キャプテン田代を中心に北國らしい展開で、前半を17対９とリードして折り返しました。

後半に入り、ソウル市庁の激しい追い上げで３点差まで詰め寄られましたが、全員が体を張ったプレーで持ちこたえ、30対24で勝利しました。

２戦目は、日本リーグ覇者のオムロン。この試合に勝てば、優勝が決まる大事な１戦。優勝報告とプレーオフのリベンジを果たすべく、前半から積極的なプレーで６点のリードを奪うも終盤に失点を重ね、12対10で終えました。

後半も田代・八十島らの活躍で終始リードを保ち、小野澤のシュートで２点差にした残り３分、１点を取られたもののお互いにディフェンスが踏ん張り、残り30秒を切って僅か１点差。そこで痛恨の退場者を出したが、最後のノーマークシュートを田代が阻止して、熱戦にピリオド。21対20で勝利し、嬉しい初優勝を決めました。

最終戦は、中国チャンピオンの上海。180㎝以上がチームの半数以上を占める大型チーム。オムロン・ソウル市庁に敗れているものの、小柄な選手の多い当行には、苦戦が予想されました。前半は、予想された通りに11対10の１点リードと互角の展開でしたが、後半勝負と睨んでいた通り、後半は躍動感溢れるプレーで突き放し、26対21で勝利し、３戦全勝で初優勝を飾ることができました。

過去の大会を振り返って、日本チームが優勝しているケースは４度あるが、日本人だけでこの大会を制したのは今回が初めてで、米谷オーナーが望んでいました日本人だけでの結果をご報告できる事に喜びが倍増しました。

開催地枠ではありましたが、日本代表として出場させて頂き、地元とも言える福井で優勝出来たのも多くのサポーターの皆様、石川県ハンドボール協会の皆様のご支援・ご声援、そして、故米谷半平・元オーナーのご指導、深山会長・安宅頭取をはじめとします銀行関係者の強力なバックアップがあったからこそだと思います。改めて、皆様方に心より感謝申し上げますと共に、今後も更に精進をする事をお誓い申し上げます。

第９回東アジアクラブ選手権大会に寄せて

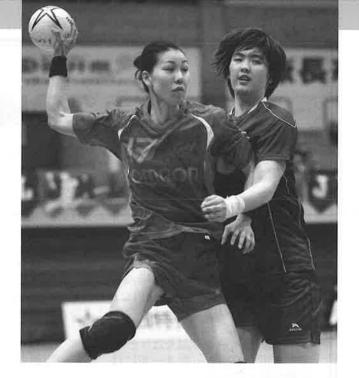
オムロンハンドボール部GM　高橋 正憲

冒頭簡単に自己紹介をさせていただきます。オムロン女子ハンドボールチームは本拠地を熊本県山鹿市に置いており、選手はこの地にあるオムロンリレーアンドデバイスという電子部品製作をする会社に所属しています。私はこの会社の社長をしており、実はハンドボールは素人ですが、オムロンのポリシーである「企業は社会の公器」、の一環として企業スポーツ活動を通しての社会貢献、に少しでも寄与すべくチームのGMを１年前から引き受けさせていただいています。

選手たちは自らの試合に向けたプレーの向上だけでなく、青少年への指導や彼らを対象としたオムロン主催の試合運営を行うなど、日常において地道にハンドボール界への貢献、地域や社会への貢献を行ってくれています。さて素人からのお話で大変恐縮ではありますが以下の寄稿をさせていただきます。

まずは大会に際して「北陸電力カップ」の冠をお付けいただき、大会にご協賛いただいた北陸電力様に感謝申し上げる次第です。またハンドボールのメッカである福井県での開催、そして素晴らしい運営に敬服いたしました。応援も地元の高校生の皆さんが各国平等に応援体制を敷き、プレーも声援を背にした白熱した試合展開となりました。来場いただいたハンドボールファンの方々にも感動を与えたのでは…、と感じる次第でした。さらにハーフタイムでの福井商業高校マーチングチームの一糸乱れぬダンスに日々厳しい練習に取り組まれている様子を垣間見た気がし感心いたしました。

試合結果に関しては、白熱した試合を制して優勝された男子韓国チーム、女子北國銀行チームの皆様には心からお祝い申し上げます。私たちオムロンも次年度も東アジア選手権に参加できるように、また次回こそは優勝できるように頑張りたいと思います。

さて感想ですが、まずはじめに同じ東アジアであるにもかかわらず中国や韓国と日本チームの間の体格差に驚かされました。男子においては中国や韓国には２ｍを超える選手も居て身長177cmの私から見ても間近では高い壁に見えました。一方で、男女ともその体格差を補うような日本チームのスピードやチームでのフォーメーションプレーの素晴らしさがありました。純粋な観客の立場で言えば、やはり小柄でもスピードとジャンプ力、また切れ味鋭いうフォーメーションプレーのほうが見ていて面白く、これこそ日本ハンドボールの華の部分だと感じました。チームのGMになってから知人にも観戦を勧めてきましたが、体を張った激しい当たりとともにスピード感あふれるプレーやゴール前でのアクロバティックなジャンピングシュートを実際に見て、皆が素直に興奮してくれるし想像以上にとても面白かった、と言ってくれます。

偶然かもしれませんが、ハンディに見える体格差を逆に強みに変える、といった点で日本のサッカーとハンドボールが似ている、と思いました。「柔よく剛を制する」「小が大を飲む」という言葉でも良く表現される日本の特徴を磨き上げて、是非「見て面白く、かつ海外チームにも勝てる」日本になっていって欲しいと思いました。

さて最後に、日本リーグの役割は白熱した試合を毎試合展開し、いかに観戦いただく皆様に感動を与えるか、また次の世代を担う子供たちに夢を与えるかが重要であり、これらを着実に実行することがハンドボールのポジションアップとひいては日本の悲願であるオリンピック出場に繋がると捉えています。日本リーグのメンバーであるオムロンも、日本がオリンピックに出場できるよう、たゆまぬチーム強化を図ると共に、日本リーグを今以上に活性化するために大いに貢献せねば、と今大会を通して感じました。今まで以上により一層、ファンやサポーターの方々に目を向けるとともに、関係者の方々と協力をしてまいりたいと思います。

末筆ではありますが、大会を開催されるに当たり、ご尽力頂きました皆様、ご来場いただいたファンやサポーターの方々に厚くお礼を申し上げます。

～研ぎ澄まされた集団に～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

ロンドン五輪への道は男女ともまた閉ざされた。「今度こそ」の希望を持ち続けてどのくらい経っただろうか。男子は1988年のソウル大会以来、女子にいたっては1976年モントリオール大会からひのき舞台に立てないでいる。選手は「自分らが歴史を変える」と挑んだロンドンだったが、またしても厚く、高くそびえる壁にはね返されてしまった。

女子が五輪出場を逃した日、奇しくも女子バレーボールが３大会連続で出場権を獲得、大喜びしている光景は、あまりにも皮肉な巡り合わせだった。

さて、女子の敗退が決まった翌日、知人からメールが届いた。

「残念ですが…結果はやはりと言うことですかね」の書き出しで始まったメールには、厳しい指摘の言葉が並んでいた。

「サッカーのように、根本の組織や体制を整えないとダメでしょうね。『スポーツとは』から問い直さないとうまくならないのでは。要は心の持ち方、指導体制を改善しなければ…」と結ばれていた。

確かに出場権が奪えなかった要因はいろいろあるだろう。それぞれの立場でしっかりと分析して、今までやってきた強化を継続していくことは、何より大切である。

しかし、日本人の特性を生かした機動力、組織力を磨くだけで、果たして欧州勢に互角に対抗できるだろうか。

やはり気になる「個人技」は、まだまだ及ばないのではないかと思う。何の競技でもそうだが「個の力」の差が、大きく勝敗を左右する。テクニックだけではない。状況に応じた試合運びなど、まだ身に着けなければならないことは多いと思う。

間違いなくチーム力はアップしている。だが、出場権を獲得した国々と比べた場合、見劣りすることも間違いないところだ。

この４年間、多くの海外遠征を組んで、外国勢とのプレーを体験した。その結果は以前と比べれば「光」は差し込んできたと言えよう。とはいえ、まだ欧州勢に比べ経験が足りないのは否めない。もっと修羅場をくぐることが大切だろう。

一方で、指導者も今まで以上に“世界のハンドボール”を学び、鍛え、伝えるかを考えなければ、ステップアップは望めないのではないかという懸念もある。

「リオ・プロジェクト」を押し進める中で、組織・指導体制の改善は避けて通れないのではなかろうか。「研ぎ澄まされた集団」にするためには、何が欠けているか、どこを修正すべきか―早急に取り組む課題は山ほどあるような気がしてならない

2012年度 全国大会レフェリー 名簿

（平成24年5月31日現在）

大 会	開催地	期 日	審 判 員 氏 名	開催地
第２回 社会人選手権 (8ペア)	宮城県 仙台市	7月4日 ～ 7月8日	◎吉田 敏明 ○中舘 豊 家永 昌樹・福島 亮一（トップ） 黒木 龍二・黒木 秀吾（トップ） 浦川 寿生・石崎 章弘（トップ） 小川 至門・内記 徹（岩手） 高野 修・長澤 純平（広島） 荒尾 祐治・桜庭 正明（青森） 古賀 直哉・荒井 啓貴（宮城） 山口修・山中基（高知・広島） 渡邉 輝昭・板垣 貴幸（愛知）	宮城県 仙台市 (8)
第25回 全国小学生大会 (４ペア)	京都府 京田辺市	8月3日 ～ 8月5日	◎岡辺 清和 ○川勝裕義 根来 英介・船津 克弘（愛知） 新井 友彦・中嶋 秀（兵庫） 木下 豪人・竹ノ下 晴彦（京都） 上原 一人・高村 一（長野）	京都府 京田辺市 (4)
第63回 全国高校総体 (24ペア)	新潟県 柏崎市 上越市 刈羽村	7月29日 ～ 8月3日	◎武智 誠治 ○ 安田 寛・永春文義（トップ） 比留間 康・北嶋 浩（トップ） 高橋 容平・磯部 尚志（北海道） 市丸 成彦・斉藤 孝明（岩手） 萩原 亨・小松 大（秋田） 野平健二郎・高橋 智（埼玉） 四元 俊一・野中 毅（栃木） 塚本 光・高橋 恭文（東京） 土橋 邦彦・清水 啓佑（長野） 桶家 秀介・魚川 友康（富山） 佐藤 卓也・増田 克洋（福井） 柏 博聡・岡 裕之（石川） 坪井 雅典・深津 美亜（愛知） 梅木 信男・土松 稔和（岐阜） 北山 力也・貝田 良寛（兵庫） 前田 隆志・北羅 雅士（大阪） 野島 祥之・石原 秀和（岡山） 角 直樹・白川 裕隆（山口） 渡辺 一晶・高木 優明（香川） 黒島 直人・金城 勇人（沖縄） 水内 隆夫・高橋 英士（新潟） 権藤 洋文・亀川 政文（佐賀） 荻野 俊夫・浅野 明彦（神奈川）	新潟県 柏崎市 上越市 刈羽村 (24)
第17回 ジャパン オープン (12ペア)	東京都 新宿区 墨田区 品川区 多摩市 武蔵村山市	8月10日 ～ 8月13日	◎ ○藤井 俊朗 ○浜田 浩和 ○高島 幸嗣 大熨 嘉彦・山本 篤洋（トップ） 島尻 真理子・太田 智子（トップ） 比留間 康・北嶋 浩（トップ） 千葉 俊幸・大内 敦史（宮城） 渡辺 英治・伊藤 奨（山形） 坂本 晴昭・平塚 亮介（山梨） 大塚 清彦・沢崎 亮太（千葉） 大石 克哉・桜打 佳浩（富山） 油上 智・中村 行志（静岡） 杉山 寛政・各務 宗孝（岐阜） 岡村 敏行・濱口 雄飛（兵庫） 金子 慎吾・川上 健一郎（長崎）	東京都 新宿区 墨田区 品川区 多摩市 武蔵村山市 (12)
第41回 全国中学校 (９ペア)	茨城県 常総市 守谷市 坂東市	8月19日 ～ 8月22日	◎齊藤 仁宏 ○佐藤 和孝 本田 昭太・田渕 元雄（トップ） 岩角 聖孝・上飯坂 徹（岩手） 古賀 直哉・荒井 啓貴（宮城） 戸塚 幸廣・勅使河原 誠（群馬） 中村 太一・中村 純也（茨城） 手塚 勝・西田 豊三（福井） 足立 智司・田中 基明（愛知） 山本 孝志・山根 貴志（島根） 弘田 睦仁・濱田 哲雄（高知）	茨城県 常総市 守谷市 坂東市 (9)
第67回 国民体育大会 (18ペア)	岐阜県 高山市 飛騨市 下呂市	10月5日 ～ 10月9日	◎ ○藤井 俊朗 ○楓 健児 ○加藤 元規 家永 昌樹・福島 亮一（トップ） 河合 威廷・臼井 健（トップ） 浦川 寿生・石崎 章弘（トップ） 亀山 耕司・水谷 省一（北海道） 森 義則・佐々木充宏（秋田） 野地 敏雄・小俣 宏之（福島） 高島 幸嗣・豊田 貴之（東京） 堀江 成典・東野 流生（東京） 金坂 英宣・談議所 啓輔（石川） 仲野 和也・藤坂 明雄（福井） 梅木 信男・土松 稔和（岐阜） 杉山 寛政・各務 宗孝（岐阜） 北山 力也・貝田 良寛（兵庫） 駒谷 研志・波多野 祐介（兵庫） 国澤 隆・指野 緑（岡山） 岡田 雅央・水津 研二（山口） 蟻川 武司・瀬良 研一（愛媛） 亀井 一寿・堀川 智宏（大分）	岐阜県 高山市 飛騨市 下呂市 (18)
男子第55回 女子第48回 全日本学生 (３ペア＋11)	福岡県 福岡市	11月14日 ～ 11月18日	◎佐野 和夫 ○高野 修 ＊各ブロック連盟からの推薦を参考に再調整。 黒木 龍二・黒木 秀吾（トップ） 浦川 寿生・石崎 章弘（トップ） 田中 潤・河合 哲（香川） ＩＨＦ・ＧＲＴＰ開催予定	福岡県 福岡市 (14)
第64回 全日本総合 (８ペア)	大阪府 大阪市	12月19日 ～ 12月23日	◎ ○藤井 俊朗 ○ ＊審判審査指導委員会より推薦。	大阪府 大阪市 (8)
第21回 JOCカップ (14ペア)	福島県 福島市	12月24日 ～ 12月28日	◎齊藤 仁宏 ○中舘 豊 石垣 正樹・今野 秀樹（北海道） 合田 享弘・橋本 賢（北海道） 大久保 孝・中里 雄太（青森） 小澤 邦紀・越智 康裕（福島） 糸井 亮平・飯塚 敏章（福島） 得居 秀匡・村上 隆（東京） 田村 裕志・川江 俊樹（石川） 徳光 明博・塩野 利明（石川） 近藤 悟・吉田 博紀（静岡） 貝沼 圭吾・須原 幸一（三重） 木下 豪人・竹ノ下 晴彦（京都） 藤本 貴啓・鳥羽 勇（兵庫） 竹安 未央・浜田 倫暢（鳥取） 上杉 洋一・宮﨑 和彦（大分）	福島県 福島市 (14)
第８回 春の中学大会 (18ペア)	富山県 氷見市	3月23日 ～ 3月27日	◎齊藤仁宏 ○岩上浩一郎 本田 昭太・田渕 元雄（トップ） 河合 威廷・臼井 健（トップ） 岩角 聖孝・上飯坂 徹（岩手） 安孫子 功・柏崎 博之（山形） 戸塚 幸廣・勅使河原 誠（群馬） 中村 太一・中村 純也（茨城） 矢崎 豊・天野 賢治（山梨） 野口 美和・池田 大輔（埼玉） 得居 秀匡・村上 隆（東京） 仲野 和也・藤坂 明雄（福井） 伊藤 翁一・酒井 政勝（富山） 金坂 英宣・談議所 啓輔（石川） 秦 隆二・秦 伊織（石川） 水野 遼・山田 祐輔（愛知） 萩原 圭介・畑中 寛之（岐阜） 木下 豪人・竹ノ下 晴彦（京都） 岡村 敏行・濱口 雄飛（兵庫） 新井 友彦・中嶋 秀（兵庫）	富山県 氷見市 (18)
第36回 全国高校選抜 (18ペア)	静岡県 袋井市 浜松市	3月25日 ～ 3月30日	◎武智 誠治 ○ 安田 寛・永春 文義（トップ） 比留間 康・北嶋 浩（トップ） 小田 健介・鈴木 孝明（北海道） 多田 和生・市丸 成彦（岩手） 谷藤 節雄・谷藤 航（岩手） 塚本 光・高橋 恭文（東京） 鈴木 紀幸・羽角 健二（埼玉） 蕪城 亮・江端 元機（石川） 片山 聡・大岩 広人（静岡） 大谷 浩司・杉浦 知雄（愛知） 下屋幸 比古・森 裕太（岐阜） 貝沼 圭吾・須原 幸一（三重） 寺内 啓之・細川 泰輔（大阪） 駒谷 研志・波多野 祐介（兵庫） 野島 祥之・石原 秀和（岡山） 岩本 靖史・藤原 初（徳島） 森實 岳史・浅野 幹也（愛媛） 児島 悟・川端 祐貴（福岡） 油上 智・中村 行志（静岡）	静岡県 袋井市 浜松市 (18)

平成24年度 第15回ハンドボール研究集会要項

テーマ「ゴール型教材としてのハンドボール―その５―」

趣　旨　平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、５・６年生のボール運動が現行の種目の列挙を改定して３つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そしてほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学１年生から６年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値がさらにアピールされていくとともに、低・中学年のゲーム領域との関連性を考慮した一貫指導体系が確立されていかねばならないという必要性に迫られている。本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

主　催　（財）日本ハンドボール協会

主　管　香川県ハンドボール協会

後　援　文部科学省（申請中）香川県教育委員会（申請中）
高松市教育委員会（申請中）

対　象　小学校、中学校および高等学校教諭。教員養成大学学生、大学院生および教員。地域スポーツ指導者。
日本ハンドボール協会Ｊ級指導員等。

会　期　平成24年7月30日（月）～31日（火）

会　場　香川大学教育学部
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1
TEL & FAX　087-832-1492（米村研究室）
香川大学教育学部附属高松小学校
〒760-0017 香川県高松市番町5-1-55
TEL 087-861-7108　FAX 087-861-1106

日　程

7月30日（月）
受　付　12：00～12：30（香川大学教育学部）
開会式　12：30～12：50
講　演　12：50～13：50
講師　国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
（併）文部科学省教科調査官　白旗和也
研究発表　14：00～15：10
実技研修　15：40～17：10
講師　有明教育芸術短期大学教授　藤井喜一
交流会　18：00～20：00

7月31日（火）
受　付　8:30～9:00（香川大学教育学部附属高松小学校）
授業提案　9：00～11：00
香川大学教育学部附属高松小学校
４年「ハンドボール」授業
質疑応答・討論会
講　義　11：00～12：00
講師　元筑波大学教授　大西武三
閉会式　12：00～12：15

学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局
〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町１-１
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座
佐藤　靖気付　TEL & FAX 018-889-2577
E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

大会事務局
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1
香川大学教育学部　米村耕平気付
TEL & FAX 087-832-1492
E-mail：yone@ed.kagawa-u.ac.jp

参加費　4,000円（学生、大学院生2,000円。資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

参加申込　参加を希望される方は、①氏名　②年齢　③勤務先　④連絡先住所・電話番号　⑤交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキ、ファックス、またはＥメールにて大会事務局までお申し込み下さい。
１）締切り日：特に設けません。当日も受け付けます。（但し、宿泊希望者は7月13日（金）までにお願いいたします。）
２）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

発表申込　研究集会のテーマに関係する研究、および実践報告を募集します。発表を希望される方は、大会事務局、または専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。
１）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
２）発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。
３）締切り日：平成24年7月13日（金）
尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。その他、発表に関してご不明な点は、事務局までお問い合わせ下さい。

宿　泊　宿泊を希望される方は、7月13日（金）までに下記連絡先までお申し込み下さい。交流会会場のリーガホテルゼスト高松（高松市古新町９－１）をはじめとした高松市内のホテル（一泊朝食付き）6,000～9,000円でご案内いたします。
連絡先：日本旅行高松支店　曽我部
TEL 087-851-4381　FAX 087-822-7380

平成24年度授業実践推進制度に基づく授業実践者募集要項
「小学校体育科授業におけるゴール型ハンドボール教材の展開について」

1　趣旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題について、総合的に授業実践を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2　授業実践内容

（1）授業実践のテーマは次のとおりとする。

ア　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

イ　簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

ウ　ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

エ　その他

（2）授業実践者は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、授業実践を進めることとする。

3　授業実践期間

おおむね2年間とする。

4　対象授業実践者

各都道府県協会より推薦された教員の中から8名程度選出する。選出は（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5　授業実践に当たって

（1）授業実践者は、校内における授業体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に授業実践を推進する。

（2）授業実践者は、（財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に授業実践を推進すること。

（3）授業実践者は、第1年次には授業実践の中間報告書を、また授業実践期間の終了時には授業実践成果報告書を、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

（4）日本協会は、必要に応じて授業実践者および都道府県協会と連絡をとり、授業実践の推進について意見および情報の交換を行なう。

6　経費

日本協会は、授業実践の委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、1年目が6万円、2年目が4万円とする。

7　その他

日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8　締切

第一次締切：平成24年7月13日（金）

9　申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（財）日本ハンドボール協会学校体育
ハンドボール検討委員会（代表　佐藤　靖）
〠010-8502 秋田市手形学園町 1-1
秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室
TEL/FAX:018-889-2577
E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

第10回ハンドボールコーチング研究会

平成24年3月10日～11日、駒澤大学において第10回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
今月号より、過日のハンドボールコーチング研究会の発表につきまして、本誌で報告する運びとなりました。
今月は小笠原一生先生（武庫川女子大学）の発表内容「今月はビデオ解析による膝靭帯損傷のメカニズム解明」と田中佑梨奈先生（武庫川女子大学）の発表内容「ハンドボール選手の競技レベルにおける反応時間と正確さの比較」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ビデオ解析による膝靭帯損傷のメカニズム解明

小笠原一生（武庫川女子大学）　小柳好生（武庫川女子大学）　樫塚正一（武庫川女子大学）

キーワード：膝靭帯損傷、画像解析、数理モデル、メカニズム

1．諸言

ハンドボールにおける外傷の多くは下肢に集中する傾向にある[1)]。とりわけ内側側副靭帯（MCL）損傷や前十字靭帯（ACL）損傷といった膝関節の外傷は重篤であり、競技復帰には靭帯再建手術や長期にわたるリハビリテーションが必要であるため、選手への負担は過大である。これらの外傷を防ぐためには、その発生メカニズムを十分に理解することが必要となる。

近年、ハンドボールの試合映像を解析して ACL 損傷時の異常な関節角度を定量化する試みがなされた[2)]。この先行研究は ACL 損傷の発生メカニズムを客観的に評価する上で画期的であった。しかしながら、異常な関節角度は膝に無理な“外力”が加わったために引き起こされた結果であるため、この異常な関節角度を生み出した“外力”がどのようなものであったかを理解しなければ、真に ACL 損傷のメカニズムを評価したことにはならない。

この先行研究の限界を踏まえ、本研究では画像解析に数理的（物理的）手法を加えることで、実際に起きた ACL 損傷の画像から選手の膝に加わったモーメントを推定する試みを行った。得られた結果からハンドボールにおける ACL 損傷の発生メカニズムと予防に関する考察を行ったので報告する。

2．方法

2－1．膝靭帯損傷の症例

対象の症例は、28歳の左利き女性エリートハンドボール選手（62kg、166cm）の右膝靭帯（MCL、ACL）損傷であった。この外傷は、ルーマニアにて行われた北京オリンピック最終予選の4日目（2008年3月28日）に発生した。後半25分、選手がジャンプシュート後に右脚で着地した際、膝が大きく外反し、そのまま転倒したものである。

2－2．画像処理による受傷選手の動作解析

本外傷は3台のカメラで多方向から同時に撮影されていた（図1）。どのカメラにおいても選手の全身がフレームアウトすることなく、且つ、背景にはゴールやコートのコーナー、フリースローエリアラインのドットが映り込んでいた。選手の動作を3次元解析するため、これら背景に映り込んだ既知の幾何学情報をもとに、3台のカメラのキャリブレーションを行った。このとき各カメラは選手の動きに合わせて動いたりズームしたりしていたため、キャリブレーションはフレームごとに行った。次に受傷選手の関節中心をデジタイズしてカメラごとに2次元座標を求め、Direct Linear Transformation（DLT）法にて3次元座標に再構築した。3次元座標をもとに全身15リンクから成る選手の運動学モデルを構築した後、身体重心位置を求め、ジャンプ時の最高到達高から着地時の重心速度を算出した。

2－3．床反力と膝モーメントの推定

選手の質量および先に求めた接地時の重心速度および接地後の重心加速度から、床反力を推定した。床反力の推定には、衝撃力を推定する Nigg et al. のモデル[3)]と並進の運動方程式[4)]を併用した。得られた床反力と先に構築した運動学モデルを用い、逆動力学法にて膝に加わったモーメント（※ここでは外モーメントとする）を算出した。

図1　3方向からの受傷映像

3．結果

図2には推定床反力のグラフを示した。横軸が時間であり、

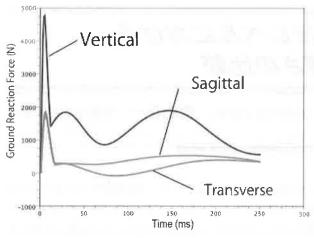



図2　物理モデルによって推定した床反力

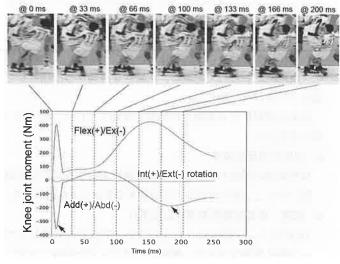



図3　受傷時の推定した膝モーメント

0ms が床との接地時である。この波形から、接地直後に床反力の急激な高まりがあり、その後いったん減衰した後、再びゆるやかに高まる特徴が見られた。図3には受傷時のコマ送り映像と推定した膝モーメントのグラフを並べて示した。接地直後に膝外反モーメント（膝を外に曲げる力）が急激に増加したことがわかった。このときコマ送り映像では、膝は外側に曲がっており、推定した膝モーメントの方向と一致していた。接地直後のピークを過ぎると、膝外反モーメントはいったん減少するが、再び増加しており、コマ送り映像からも膝が外側に変位した状態のままであったことが確認できる。膝外旋モーメントも作用したことが示されたが、外反モーメントに比べると大きなものではなかった。

4. 考察

本症例の主因は、接地直後に急激に高まった膝外反モーメントであったことが示された。膝は左右方向の可動域を持たないため、今回推定された外方向への過大なモーメントが、靭帯組織の力学的限界を上回ったものと考えられる。さらに着目すべきは、接地後 0.008 秒という膝外反モーメントのピークの時間帯である。この非常に短い時間帯は、たとえ反射であっても回避行動をとることが不可能であったことを示している。靭帯損傷を防ぐためには着地時に床反力の作用方向と関節可動域の方向を一致させ、膝外反モーメントを極力生じさせないが重要であるが、接地後に動作修正することは上記の理由から好ましくない。したがって、今後、靭帯損傷の予防トレーニングが具備すべき点は、着地を迎える以前から適切な下肢の姿勢と下肢筋の予備緊張を整え、安全な着地に備える"予測的"動作生成であると考えた。

謝辞

本研究を行うにあたり受傷映像を提供していただいた選手に対し心からの謝意を表します。

参考文献

1）花岡美智子、大学女子ハンドボール選手における傷害発生状況とその発生要因について、東海大学紀要、体育学部 37、85-89、2007。
2）T Krosshang et al., Biomechanical analysis of anterior cruciate ligament injury mechanisms: three-dimensional motion reconstruction from video sequences. Scand J Med Sci Sports, 17(5), 508-519, 2007.
3）B M Nigg et al., The effect of muscle stiffness and damping on simulated impact force peaks during running. J Biomech, 32(8), 849-856, 1999.
4）L Ren et al., Whole body inverse dynamics over a complete gait cycle based only on measured kinematics. J Biomech, 41(12), 2750-2759, 2008.

ハンドボール選手の競技レベルにおける反応時間と正確さの比較

田中佑梨奈（武庫川女子大学修士課程） 小笠原一生（武庫川女子大学） 樫塚正一（武庫川女子大学）

キーワード：ハンドボール、反応時間、視覚刺激

Ⅰ．諸言

球技では変化する状況に適応する能力が求められ、特に熟練者は初心者に比べ、状況に応じた技術の発揮ができていると考えられる。ハンドボール競技は、相手・味方選手がコート上に入り乱れ、速く複雑な展開が繰り広げられる。競技者は状況判断を行う際、多様な情報を主に視覚から取り入れており、視覚機能は大変重要な役割を担っている。ゲームを有利に進めるためには、視覚からの情報を瞬時に処理し、技術を取捨選択しなければならない。視覚に加えて、審判のホイッスルに応じ動作を切り替えたり、味方選手との声によるコミュニケーションで動作を判断したりと、視覚と聴覚の情報を統括的に判断する必要がある。

枝川ら[1]は、スポーツで選手が競技の対象や周囲の状況を正確に把握、認知することは、選手の競技能力を十分に発揮させるための重要な要素であると述べており、反応時間の速度と正確さが競技者に必要であることを示唆している。従って、ハンドボール競技では多様な情報を主に視覚・聴覚から取り入れ、正確な判断と技術の発揮が求められるとともに、熟練者はこの能力の発揮が優れていると考えた。ところが、異なる感覚器からの重複した刺激に対し、ハンドボール選手における運動選択の巧みさに関した検討は少ないのが現状である。

そこで本研究では、重複した刺激の運動課題における成績が、競技レベルによってどう異なるのか検討する事を目的とした。加えて競技レベルが高いほど刺激に対して早く正確に反応し、誤反応回数は少なくなり状況に応じた判断に優れていると仮説を立てた。

Ⅱ．方法

1）調査対象

対象は女子学生 27 名（平均 18.3 ± 1.7 歳）とし、競技経歴に応じて熟練者群 8 名（20.0 ± 1.3 歳）、中級者群 9 名（18.9 ± 0.9 歳）、初級者群 10 名（16.7 ± 0.8 歳）の 3 つの集団に分けた。

2）調査方法・実験方法

状況に応じた技術の発揮を評価するため、視覚および聴覚刺激に対する反応時間と刺激に対する正確性の計測を、視覚・聴覚反応動作検査機（竹井機器工業株式会社、日本）を用いて行った。

測定室は静かで薄暗い部屋を使用し、実験機器から 150 ㎝の距離に被験者を着席させた。視覚刺激を与えるランプは 3 種類で左側のランプ（青）に対しては右手、中央のランプ（黄）に対しては左手、右側のランプ（赤）に対しては右足で反応するように教示した。このとき被験者に青ランプに対する右手、黄ランプに対する左手の関係が X のように交差していることは述べないようにした。被験者にはキーを押した状態で準備させ、ランダムに点灯したランプに対応するキーを素早く離させた。ランプ点灯からキーを離すまでの時間を「反応時間」として記録し、正確性を評価する指標として誤反応の回数を記録した。

刺激の重複による運動への影響を評価するため、以下の 2 条件を設けた。

a）視覚刺激反応条件

視覚刺激の種類から正しい運動を選択実行する時の反応時間の早さと、選択の正確さを評価するために 16 回行った。

b）視覚・聴覚重複刺激選択反応条件

16 回のランプ掲示のうち 4 回はランプ点灯と同時にブザーが鳴る課題を加えた。被験者にはランプと同時にブザーが鳴った場合、キーを離さないように教示した。

Ⅲ．結果

a）視覚刺激反応条件

視覚刺激反応課題では、熟練者群が中級者群に比べて反応が有意に早かった（$p < .05$、図 1）。誤反応の回数では 3 群に有意な差は認められなかった（図 2）。

b）視覚・聴覚重複刺激選択反応条件

視覚・聴覚重複刺激選択反応課題では、熟練者群が中級者群と初級者群に比べて反応が有意に早かった（$p < .005$、$p < .001$、図 3）。また、誤反応の回数では、初級者群が熟練者群に比べて有意に多かった（$p < .005$、図 4）。

Ⅳ．考察

図 1、図 3 に示された視覚刺激反応課題と視覚・聴覚重複刺激選択反応課題の熟練者群の結果から興味深い特徴が見られた。熟練者群は、中級者群や初心者群に比べて課題が難しくなる方が、早く正確な判断を示した。熟練者群は初心者群や中級者群に比べ、感覚器から得た情報を素早く認識し、状況に応じた技術を相手より速く発揮していることで有利に試合を展開していると推察される。

視覚刺激反応課題では熟練者群と中級者群に有意差が認め

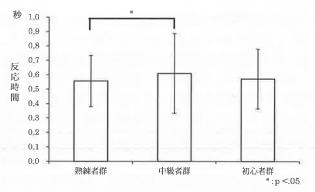



図1　視覚刺激反応条件における3群間の反応速度比較

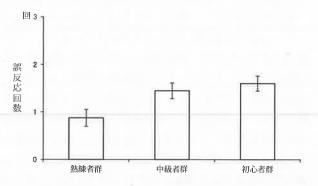



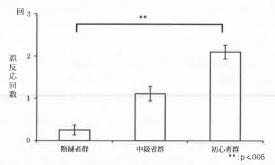
図2　視覚刺激反応条件における3群間の誤反応回数の比較

図3　視覚・聴覚重複刺激選択反応条件における3群間の反応速度比較

図4　視覚・聴覚重複刺激選択反応条件における3群間の誤反応回数の比較

られた理由として、鶴岡ら[2]の報告と同じく、視覚刺激反応条件では刺激を選択する必要がなく単一の刺激に対して反応するためと考えられる。また、競技熟練の差が顕在化するほどの課題設定ではなかったと考える。初心者群は中級者群に比べ、反応時間は早いが誤反応回数が多くみられた。これは中川[3]が先行研究で報告した「パフォーマンスレベルの低い選手は刺激に対して感覚的に反応している」という報告を支持した結果と考える。

視覚・聴覚重複刺激選択反応課題では、熟練者群が中級者群と初心者群に比べて有意に早い反応を示した。また、誤反応回数でも熟練者群はより正確に回答していることがわかる。この結果から、熟練者群は品治[4]のどのパターンを選択すべきかを早く正確に見極める点に優れているという報告を支持した。

本研究では、重複した刺激の運動課題の成績から熟練者群が中級者群と初級者群と比較して反応時間の早さと正確さに優れており、競技レベルが高いほど状況に応じた判断に優れているという仮説は立証された。しかし、なぜ熟練者群が初心者群に比べて状況に応じた技術の発揮ができるかの詳しい原因までは明らかにできなかった。今後、高い競技レベルの競技者が状況に応じた技術の発揮がなぜできるのか解き明かすことで、熟練者の状況に適応する能力が明らかになり、より研究の発展が望めると考える。

引用文献

1）枝川宏、石垣尚男、真下一策、ほか（1996）、スポーツ選手の視力と競技能力の関係、臨床スポーツ医学、13、7、806-810。

2）鶴岡英吉、笠井恵雄、多和健雄、ほか（1965）、選択刺激による反応動作の分析的研究、体育学研究、8（3、4）、49-54。

3）中川昭（1984）ボールゲームにおける状況判断能力とスキルの関係、筑波大学体育科学紀要、7、85-92。

4）品治恵子、佐久間春夫（2010）、視覚情報処理様式からみた状況判断能力の違いについて、奈良女子大学スポーツ科学研究、12、1-9。

審判活動を振り返り

岩手県協会　中舘　豊

お陰様で平成24年3月末をもって、全国大会の審判員としての務めを無事に終えることができました。これも偏にご指導ご支援いただいた方々が多くいらっしゃったからだと思っています。大変ありがとうございました。拙いものではございますが、ここで私の経験をお伝えし、今後活躍してくれるであろう若手の審判員やハンドボールを支えていただいている皆様のお役に立てればと思います。

全国大会デビューは、日本リーグを担当している大方のペアより遅く平成9年3月、35歳という年齢でした。2年後の平成11年岩手にてインターハイが行われることが決定し、そのインターハイで1ペアでも多く地元審判員が担当できるようにと、当時の東北協会審判部長であった小友正人先生（現在富士大学教授）にご指導いただき、同じ高校教員であった多田和生氏（現水沢工業高）とペアとなり審判法について研鑽する日々がはじまりました。

ペアとなった当初は、判定基準にかなり食い違いがありゲーム後には前述の小友氏や東北高体連審判長・田村登氏等から懇切丁寧に指導をいただきながら、よりよい判定を目指しゲームを担当しました。県内、東北ブロックの試合だけではなかなか得ることができないものもあるだろうということで、当時東京都協会審判長であった兼田佳博氏にお願いし、福地賢介理事長から快諾を得て関東学生リーグを担当させていただいてから、徐々に全国が求める判定というものを肌で感じ表現しようとしていた時期だったと思います。これも、関東学生リーグのゲームを直接観ていただきゲーム直後や場所を代えて丁寧に指導いただいた元国際審判員・後藤登氏、元日本協会審判部長・島田房二氏等のご支援も大きかったと思います。

二人で全国デビューの全国高校選抜大会・愛知では、初めてということで普段以上に気合いを入れて担当しました し、この大会最後の担当試合が延長戦となり、かなりの緊張と、試合後はやり終えたという達成感を覚えています。翌、平成10年3月愛知での全国高校選抜大会では何が高い評価につながったのか分かりませんが、初めて全国大会決勝（女子）を担当させていただき大変感激したことを覚えています。この大会の男子決勝がこの試合で全国大会引退となる福岡の森山・新荘ペアであったことは、今思えばかなり縁を感じる担当試合でした。その後は、全国高体連審判長であった市瀬公敬氏、細澤覚氏、大橋幹正氏の指導の下､高校の全国大会を中心に担当させていただきました。

高校の全国大会で一番思い出に残っているのは、地元インターハイで優勝を狙っていた強豪の某チームのゲームを担当させていただき、接戦となったもののその地元チームが敗れる結果となりました。試合後我々に対する地元の反応はかなり冷ややかであったことを覚えていますが、その敗れたチームの監督さんと試合後に会場でお会いし「今日のゲームを担当していただき大変ありがとうございました。また、次の機会があればよろしくお願いします。」と罵倒されるではなく感謝の言葉をかけていただいたことが、ここまで多田氏と一緒にやってこれた要因のひとつと大変ありがたく思っています。（奇しくも翌年のインターハイで、このチームが地元強豪校と対戦。残り90秒まで地元チームが3点リードしていたところを地元チームのチームタイムアウトを機に怒濤の攻めで追いつき延長戦でひっくり返したゲームを担当。満員の観客が地元の応援ではなくこの激しい攻防に魅了、大きな拍手・声援を送っていたことは担当ゲームの中でも印象に残るゲームでした。）このチームの監督さんをはじめ全国各地の監督さんから声をかけていただき、交流を持つことができたのもレフェリーを務めてよかったことのひとつです。

高校の大会ばかりではなく、各種の全国大会を担当させていただき多くのことを学びました。インカレでは審判長であった佐野和夫氏、狩野幸介氏、高野修氏から学生のスピードを冷静に観察判断することを学びましたし、実業団選手権（現社会人選手権大会）では吉田敏明審判長よりパ

ワー・スピードとも全日本クラスの選手、チームから如何によいプレーを引き出すか、そのためゲーム前の準備は如何にすべきか等を学びました。

そして、日本リーグも担当させていただき、平成12年からは全日本総合にもノミネートされるようになりました。全日本総合はまさしく日本一のチームを決める大会であり、日本リーグのレギュラーシーズンともまたある意味違った感覚を覚えましたし、日本リーグ、大学チーム、クラブチーム等カテゴリーの違うチーム同士の対戦もあり、これまた普通の全国大会と趣の違いを感じました。その中で普段通りに担当することの難しさ、たったひとつのジャッジの曖昧さが、その後のゲーム運営を大変にすることなど他の大会以上に学ぶことが多いものでした。「笛は人格である」とおっしゃった元（財）日本協会審判部長の齋藤賓氏や、丁寧にワンプレーワンプレーの判定をご指摘いただいた島田房二氏、ペアであった仲田稔氏とともにゲーム後や夜の会食時まで熱心にご指導いただいた植村彰氏等、歴代の審判部長から直接アドバイスをいただけたのも貴重な経験でした。そして、シャープで切れのある笛を吹く浜田・小笠原ペア、日本リーグに外国人選手が多かった頃からクリアな笛でしっかりとゲームコントロールを心掛けた家永・福島ペア、1試合を見通した判定を積み重ねた仲田・植村ペア、何事にも動じない態度が選手をプレーに集中させていた藤井・大熨ペア、若手ながら貪欲に多くの審判法を身につけようとしていた池渕・檜崎ペア等、国際審判員ペアを直に観察し考えを聞くことができたのも大きな財産となりました。さらに、越田義昭審査指導委員長はじめ審査指導委員の大先輩から直接指導を受ける機会もこの総合であり、有り難い勉強の場となりました。（審査委員のお一人K氏からはペアであったA氏と共に素敵な笛を頂戴できたことも嬉しい思い出です）そのおかげもあり、平成20年金沢での男子準決勝・大同特殊鋼対トヨタ車体戦や平成23年横浜での女子決勝・オムロン対ソニーセミコダクタ戦後に（財）日本協会市原副会長から直接「いいレフェリングだったよ！」と激励していただいたことはとても嬉しく感じましたし、今まで多くの方からご指導いただいた賜と大変感謝しています。

ペアである多田氏とともに全国大会を16年間、その中でそれぞれの全国大会の決勝と呼ばれるゲームも30試合ほど担当、日本リーグも担当50試合を越え JAPAN CUP 等国際ゲームも何度か担当させていただき大変多くのことを学ぶことができました。その経験から特に若手のレフェリーにお願いしたいことは、①1回戦であろうが決勝戦であろうがどのようなゲームであっても誠意をもって丁寧さを心掛けてほしい。（例えば得点後からスローオフまでボールを常に視野に入れて行動を！）その丁寧さが、大切だと思われる場面で集中力を持続して周囲が納得する判定につながると思います。②担当試合の前後には多くの方から意見を聞く姿勢を！（前述の仲田氏より同じ場面でも観る角度が違うと判定も違って見えることを色々な人から意見を求めるなかでハッと気がついたとお聞きしたことがありました。自分の判定と考えが食い違っているときこそ、その意見に耳を傾けることが次の担当試合で幅の広い懐の深い、より多くの人が納得できる判定につながると思います。他の意見といえば、元国際審判員・光島磯雄氏からはヨーロッパの訳文やご意見を沢山いただけたのも大変有り難いことでした。）③今一度、ハンドボールのおもしろさを考え、伝えることがレフェリーの役目と考えよう！（競技規則に一番精通しているのは当然レフェリーであるがそれを振りかざしてゲームを仕切る、というよりもルールを上手く適用する気持ちで判定すれば選手・ベンチ・観客ともハンドボールの良さに没頭できるのではないでしょうか⁉）④ペアと二人協同で担当している気持ちを忘れずに！（夫婦でもない二人ですから考え・意見も当然違います。それでもコート上では二人で一つと思って振る舞うことは大切！）

思いつくままに綴りましたが何かお役に立てれば幸いです。あらためて、ここまでご指導ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げ、指導していただいたことをできる限り還元できるように努めていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

ハンドボール全日本男子 2008-2012 メディカルレポート総括

メディカルスタッフ　ドクター　沖本信和、トレーナー　赤尾和彦

酒巻監督の元、2008年1月東京での北京オリンピック再予選から2012年クロアチアでのロンドンオリンピック最終予選までの主要国際大会のデータをもとに、アジア1位、リオデジャネイロオリンピック出場を目的にメディカルレポートを作成しました。

主観的ではあります（お許しくださいませ）が、アジア1位、オリンピック出場のために少しでも役立つことを願ってレポート作成いたしました。

2008年1月に北京オリンピック再予選から始まり、2月にイランでアジア選手権、2010年2月はレバノンにてアジア選手権、ここで3位となりスウェーデン世界選手権切符を獲得、その後5月にクロアチアで北京オリンピック世界最終予選（私は帯同していませんが有田医師が帯同）、11月には広州アジア大会（ハンドボール協会からのドクター帯同は男女ともに無しでした。できることならばドクター1名でも男女共通で帯同できればメディカルサポートが充実するのではと思います）、2011年1月にスウェーデン世界選手権、同年10月にソウルでロンドンオリンピックアジア予選、2012年1月にはサウジアラビアでアジア選手権、そして4月クロアチアにてロンドンオリンピック世界最終予選と主要な国際大会がありました。

メディカルサポートは赤尾和彦トレーナーと沖本信和医師で行ってきました。赤尾トレーナーは国内・海外ほとんど全ての合宿・遠征に帯同してくださいました。その間、足関節複雑骨折、顔面裂創から発熱・下痢などの内科疾患まで多くの疾患に対して、電話・メールで頻回に連絡を私にしてくださいました。そこで指示させていただき対応してきました。可能であればドクター帯同が増えると良いと思いますが、最低限いずれ（国内であれ）の合宿・遠征もトレーナーもしくはドクターのいずれかの帯同は必要であると考えます。**1．ドクター不在の合宿・遠征ではトレーナーとの電話やメールでの連絡が重要であると**言えます。

ANTCでの国内合宿は有用でした。ただし、土日の診療がないため、市来さんをはじめ、いろいろとご心配をおかけしました（レントゲンチェックやインフルエンザの診断など）。

2．メディカルチェックはドクターとトレーナーが必ず一緒に行い、共通認識を持ち、コンディショニングにあたること、また、監督・コーチなどスタッフに毎日報告することが必要です。この4年間で手術が必要となる選手も数名いましたが、**3．手術のタイミングなどドクターから所属チームの監督・トレーナーへの連絡は重要でした。**

合宿・遠征でのコンディショニングでは赤尾トレーナーによるマッサージ、針治療、超音波治療器などの物理療法が行われました。治療時間が足りないこともあり、田中トレーナー、市川トレーナーにも治療をお願いしました。1日平均10名程度がケアを受けていました。テーピングは各練習・試合に応じて平均7人程度のテーピングを必要としていました。テーピング用の時間配分を考慮してのスケジュール調整が必要です。場合に応じて、**4．トレーナーの増員も考えるべきと思われます。**

5．海外での水・アイシング用の氷の確保は必須であり、中山コーチ、近藤総務、赤尾トレーナー、ドクターでその都度対応ができていました。

時差調整としてはなるべく早めに現地入りもしくは周辺国での強化合宿が望ましく、できるだけ現地で日光にあたり現地時間で生活することが重要です。最悪の場合は入眠剤を使用することもありました。

6．主要大会では平均2.5人の選手が発熱（37.5度以上）していました。いわゆる感冒だけではなく、ストレスや体力消耗なども関与しているようです。飛行機での移動はマスクを、日常生活ではうがい・手洗いを励行してきました。海外では湿気が少なく、浴槽にお湯をはったり、濡れたタオルを部屋干しするなどの調整をしてきました。また、感染予防には食器やペットボトルの使いまわしにも注意してきました。感染の恐れがあるときはできるだけ、一人部屋にして隔離してきました。**7．もっとも重要なのは感冒症状が出ると早めに自己申告してもらうこと**です。体温測定も頻回に皆さんに協力していただきました。

8．国によっては胃痛・発熱・下痢が多いところもあり、十分に薬剤を調達しておく必要があります。注射は関節に貯まった水を抜くことからヒアルロン酸、ステロイド、局所麻酔剤などを単独もしくは組み合わせで使っていきます。また、腰椎椎間板ヘルニアなどでは仙骨硬膜外（裂孔）ブロック注射などを行います。その際には長い針であるカテラン針が必要になります。また、アキレス腱炎・足底腱膜炎など局所注射にヒアルロン酸、ステロイド、局所麻酔剤などを使っています。いずれにしても、器材・薬剤を十分に携行しなければなりません。**9．一遠征・大会での平均注射本数は14本でした。廃材（注射器や針やアンプル）は必ず、日本に持ち帰って自院で処分しています。ホテルや試合会場には絶対に廃棄しないことをお勧めします。ドーピングの疑いをもたれたり、モラルが低いと思われたくないからです。バッティングなどでの顔面・口唇裂創で縫合を必要としたのは一遠征・大会で平均0.7人でした。**アロンアルファ（あかぎれ、指の血豆）も有用です。靴の修理も使えます。捻挫（時には軽度のはく離骨折）や突き指（脱臼、はく離骨折）にはプラスティックギプスで随時装具を作成しています。

病院での診断やレントゲンが必要になることもあります。現地の通訳や選

手係、コーディネーターとコミュニケーションを円滑にとっておく必要があります。**10. 病院に行くこともあります。6大会中2大会ありました。**

食事は現地のものを十分摂取する必要がありますが、生野菜などは注意する必要があります。飛行機超過料金の問題を解決すれば日本食などを十分準備しておくことをお勧めします。味の素㈱様からのアミノバイタル、大塚食品㈱様からのカレーなどのレトルト食品の差し入れはとても助かりました。物価が安ければ現地で電子レンジを買うこともできます（サウジアラビアでは買いました）。**11. フライトを工夫し超過料金を避けて**（**航空会社のプラチナカードは有用で、何人持っているか把握しておくと便利です**）**、日本食など十分な物資を調達すること**は重要です。

衣服に関しては㈱アシックス様から提供された防寒具などは重宝しました。洗濯はコインランドリーがある場合や、大会で一括してくれる場合や、ホテルに料金を払ってしてもらう場合（以外に安いこともあります）もあります。近藤総務には大変お世話になりました。

12. トレーニングジムがホテルにあることは重要です。なければコーディネートして近隣で確保する必要もありました。デンマークでのテストマッチ会場への移動はレンタカーを借りることも多く、小回りが利いていました。

13. ドーピングについてはアジア大会を含めた9大会中5大会で実施されました。5大会で延べ9名でした。私は各選手のメディカルカルテを大会ごとに作成していますが、それにサプリメントから内服薬・注射の部位・実施日時を書いていましたので、とても役に立ちましたし、書類記載もスムースに行うことができ、ドーピングコントロール実施側からも好評でした。普段から各選手へのドーピングへの諸注意とチェックは重要です。

14. メンタルコントロール、モチベーションを高める目的で、酒巻監督から多くの言葉をいただき、チーム内で勝つためのコミュニケーションをとってきました。選手ごとに話し合いがあったりもしました。まだ不十分かもしれませんが、このような意思統一を各カテゴリーの指導者・スタッフが共有し、ジュニア層から徹底できれば必ず身を結ぶと考えます。

ヨーロッパを中心とした、海外でのテストマッチも行いました。選手は徐々にヨーロッパのサイズやジャッジに慣れてきたようでした。アメリカ、アフリカ大陸やほかのアジア勢の多くもヨーロッパで合宿・テストマッチをこなしているようでした。サウジアラビアでのアジア選手権前に行われたカタール・バーレーンでの強化合宿は、今までの中東に対する違和感が大きく減少しました。有意義な強化だったように思われます。今後はこうした**15. 中東での強化合宿**も考慮すべきかもしれません。

海外でのコミュニケーションにはどうしても**16. 語学が必要**です。酒巻監督は英語が堪能であるため言葉で困ることはありませんでした（監督は地元マスコミのインタビューもすべて英語で受け答えしていました）。スタッフ・選手は語学の習得もできればよいと思います（韓国でプレイしていた選手は、韓国戦において韓国語を理解していたため、相手の話している内容を日本チームに上手に伝えていました）。

以上、とりとめのない内容となってしまいましたが、お許しください。

今まで、現地まで激励や空港まで迎えに来ていただいた渡邊会長、市原副会長、多田副会長、川上副会長、田中、大橋常務理事はじめ多くの方に感謝申し上げます。また、川上専務理事、西窪強化本部長は多くの大会に帯同していただき有難うございました。ソウルでのロンドンオリンピック予選では津川・田口・松井歴代ナショナル監督が来てくださいました。有難うございました。また、市来さんをはじめ、多くの協会関係者が現地まで応援にかけつけてくださって、サポートしていただいたことにも感謝しております。

最後に、日本協会スタッフ、医科学委員の皆様、いままでの遠征に対し、ご尽力いただき有難うございました。死力を尽くして戦った選手のみなさん、酒巻監督、中山コーチ、近藤総務、舎利弗先生、有難うございました。

過去を教訓として、今からオリンピックに向けて、ポジティブに、微力ながらもサポートして行きたいと考えます。

スコアールーム

第7回春の全国中学生選手権大会

開催期日：2012年3月24日(土)～28日(水)
会　　場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンター、氷見高校、有磯高校

【男子】

▼1回戦

チーム	スコア	チーム
ヴァルト岐阜(岐阜)	25(9－8、16－7)15	吉川南(埼玉)
多々良中央(福岡)	34(14－3、20－11)14	三本木附(青森)
埴生(長野)	22(12－8、10－5)13	椿(愛媛)
滝尾(大分)	35(22－10、13－12)22	見前(岩手)
水海道西(茨城)	22(10－9、12－10)19	総社西(岡山)
はとり(愛知)	32(15－4、17－7)11	東根第一(山形)
小山第三(栃木)	23(14－6、9－9)15	城東(徳山)
鹿骨(東京)	28(11－11、17－16)27	本渡中(熊本)
LHC静岡(静岡)	27(5－9、14－10)24 (4－3、4－2)	彦根東中(滋賀)
富岡南(群馬)	24(15－3、9－12)15	広島メイプルJr.(広島)
神崎(佐賀)	31(14－11、17－9)20	塩江中(香川)
塩山(山梨)	28(14－7、14－13)20	小島中(長崎)
土佐(高知)	37(20－8、17－12)20	柏刈・直江津(新潟)
明倫(福井)	32(15－12、17－16)28	隼人(鹿児島)
東邦大東邦(千葉)	33(15－2、18－3)5	大瀬(奈良)

▼2回戦

チーム	スコア	チーム
ヴァルト岐阜(岐阜)	37(16－7、21－9)16	祝吉(宮崎)
氷見南部(開催地)	42(22－2、20－10)12	境港第一(鳥取)
多々良中央(福岡)	23(10－8、13－6)14	西中原(神奈川)
大住(京都)	23(12－5、11－10)15	埴生(長野)
滝尾(大分)	36(19－10、17－14)24	根上(石川)
水海道西(茨城)	24(16－9、8－9)18	那賀(和歌山)
はとり(愛知)	23(13－9、10－8)17	井吹台(兵庫)
美東(沖縄)	32(15－8、17－12)20	小山第三(栃木)
鹿骨(東京)	29(16－14、13－8)22	凌雲(北海道)
LHC静岡(静岡)	32(15－12、17－11)23	湯沢南(秋田)
富岡南(群馬)	27(8－9、19－12)21	氷見北部(富山)
神崎(佐賀)	22(12－14、10－7)21	中田(宮城)
信夫(福島)	20(13－9、7－9)18	塩山(山梨)
豊中第一(大阪)	42(22－7、20－8)15	土佐(高知)
平田(山口)	27(12－5、15－14)19	明倫(福井)
東邦大東邦(千葉)	17(9－10、8－6)16	菰野(三重)

▼3回戦

チーム	スコア	チーム
氷見南部(開催地)	34(16－13、18－14)27	ヴァルト岐阜(岐阜)
多々良中央(福岡)	26(14－7、12－8)15	大住(京都)
滝尾(大分)	29(16－12、13－11)23	水海道西(茨城)
はとり(愛知)	35(20－8、15－10)18	美東(沖縄)
鹿骨(東京)	38(18－6、20－11)17	LHC静岡(静岡)
富岡南(群馬)	29(13－11、16－14)25	神崎(佐賀)
豊中第一(大阪)	27(16－4、11－11)15	信夫(福島)
平田(山口)	23(11－4、12－12)16	東邦大東邦(千葉)

▼準々決勝

チーム	スコア	チーム
氷見南部(開催地)	24(12－8、12－15)23	多々良中央(福岡)
滝尾(大分)	25(13－8、12－10)18	はとり(愛知)
鹿骨(東京)	27(13－16、14－9)25	富岡南(群馬)
豊中第一(大阪)	26(17－12、9－13)25	平田(山口)

▼準決勝

チーム	スコア	チーム
滝尾(大分)	29(14－11、15－10)21	氷見南部(開催地)
豊中第一(大阪)	36(12－10、24－12)22	鹿骨(東京)

▼決勝

チーム	スコア	チーム
滝尾(大分)	27(10－9、17－15)24	豊中第一(大阪)

【女子】

▼1回戦

チーム	スコア	チーム
日野(長崎)	27(10－8、17－11)19	富岡南(群馬)
香川第一(香川)	21(13－5、8－7)12	湯沢北(秋田)
けやき台(茨城)	33(17－3、16－4)7	屋代(長野)
西中原(神奈川)	20(14－3、6－4)7	鳥居本(滋賀)
氷見西條(開催地)	22(11－5、11－11)16	中山(岐阜)
大平南(栃木)	22(10－11、12－8)19	魚住東(兵庫)
光陽(福井)	29(14－7、15－5)12	成田(宮城)
氷見第十三(富山)	28(16－3、12－3)6	緑ヶ丘(奈良)
東久留米西(東京)	41(26－6、15－10)16	尾花沢(山形)
平田(山口)	24(8－3、16－7)10	荒川(和歌山)
国分(鹿児島)	25(14－4、11－3)7	境港第一(鳥取)
高南(大阪)	20(6－9、14－5)14	見前(岩手)
小松南部(石川)	19(6－8、13－8)16	山梨北(山梨)

▼2回戦

チーム	スコア	チーム
日野(長崎)	22(10－10、12－9)19	本宮第一(福島)
培良(京都)	18(8－8、10－5)13	清水第二(静岡)
松橋(熊本)	15(9－10、6－4)14	香川第一(香川)
けやき台(茨城)	24(12－7、12－0)7	総社西(岡山)
西中原(神奈川)	29(13－1、16－3)4	神崎・東明館(佐賀)
氷見西條(開催地)	38(18－1、20－3)4	城東・鳴門第一(徳島)
小松原(宮崎)	20(10－5、10－9)14	大平南(栃木)
光陽(福井)	24(10－4、14－9)13	亀山(広島)
氷見第十三(富山)	25(9－11、16－8)19	上野(愛知)
東陽(大分)	21(6－7、15－8)15	花園(千葉)
東久留米西(東京)	16(11－4、5－10)14	甘木(福岡)
平田(山口)	18(7－5、11－4)9	今治東(愛媛)
国分(鹿児島)	12－0(棄権)	三郷北(埼玉)
高南(大阪)	36(19－4、17－9)13	城北(高知)
仲西(沖縄)	26(13－9、13－8)17	凌雲・高盛(北海道)
小松南部(石川)	17(10－2、7－9)11	朝明(三重)

▼3回戦

チーム	スコア	チーム
培良(京都)	22(8－6、14－10)16	日野(長崎)
けやき台(茨城)	18(8－7、10－6)13	松橋(熊本)
西中原(神奈川)	18(7－7、11－10)17	氷見西條(開催地)
光陽(福井)	19(8－7、11－10)17	小松原(宮崎)
氷見第十三(富山)	19(11－3、8－10)13	東陽(大分)
平田(山口)	28(17－8、11－7)15	東久留米西(東京)
高南(大阪)	34(20－8、14－7)15	国分(鹿児島)
仲西(沖縄)	27(15－5、12－9)14	小松南部(石川)

▼準々決勝

チーム	スコア	チーム
けやき台(茨城)	24(11－7、13－5)12	培良(京都)
光陽(福井)	23(11－7、12－3)10	西中原(神奈川)
氷見第十三(富山)	16(8－8、8－7)15	平田(山口)
仲西(沖縄)	22(13－7、9－11)18	高南(大阪)

▼準決勝

チーム	スコア	チーム
けやき台(茨城)	15(6－5、9－8)13	光陽(福井)
氷見第十三(富山)	17(8－9、9－7)16	仲西(沖縄)

▼決勝

チーム	スコア	チーム
けやき台(茨城)	17(6－8、8－6)14 (1－0、2－0)	氷見第十三(富山)

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【岩　手】中舘　豊、中島昭博、高橋元一【群　馬】品田鮎美【埼　玉】吉原　伯、豊田　武、豊田久恵
根城　泰【千　葉】舎利弗芳子、外山朝子、柳田美子【東　京】塩川安賢、緑川正博、千葉栄一、増田美穂子
中澤重夫、市川央人、大塚文雄、兼子　真、菊地知男、梶間珠美【神奈川】近久紀人、島田信弘、棚村友博
吉澤和美、斉藤航大、久保公雄、久保靖子、佐分正典【富　山】金原　至【石　川】酒谷信彦【愛　知】西川勤也
浅野克彦、村木啓作、城山秀美、山本幸代、山田美佐子【三　重】伊藤みち子、伊藤克己、加藤　公
【岐　阜】河野公昭【大　阪】吉田敏明、草井文子、大西和雄【広　島】山下明子、小山　章【福　岡】松尾勝也
【沖　縄】大城一樹

【7月・8月の行事予定】

【会議】……………………………………………

7月14日(土)　常務理事会（東京）

【大会】……………………………………………

7月1日(日)～14日(土)
第18回女子ジュニア世界選手権（チェコ・ブルノ）
7月4日(水)～8日(日)
第2回全日本社会人選手権大会（宮城県・利府町）
7月14日(土)～15日(日)
第32回全国クラブ選手権・東（福島県・本宮市）
7月19日(木)～22日(日)
第17回ヒロシマ国際大会（広島市）
7月21日(土)～22日(日)
第32回全国クラブ選手権・西（山口県・周南市）
7月27日(金)～8月12日(日)
第30回オリンピック競技大会（イギリス・ロンドン）
7月29日(日)～8月3日（水）
第63回全日本高校選手権大会（新潟県・柏崎市ほか）
8月3日(金)～5日(日)
第25回全国小学生大会（京都府・京田辺市）
8月3日(金)～5日(日)
第20回全日本マスターズ大会（愛知県・豊田市）
8月10日(金)～13日(日)
第17回ジャパンオープントーナメント
（東京都・墨田区ほか）
8月16日(木)～26日(日)
第4回女子ユース世界選手権（モンテネグロ）
8月19日(日)～22日(水)
第41回全国中学校大会（茨城県・常総市ほか）
8月20日(月)～22日(水)
第39回全国高等専門学校選手権大会
（広島県・呉市）
8月25日(土)～26日(日)
第14回全日本ビーチハンドボール選手権大会
（兵庫県・神戸市）

HAND BALL CONTENTS Jun. Jul.

※次号は「8・9合併号」として9月1日に発行いたします。

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics.com

GELDOUBLESKY 2

グリップ力と耐久性に優れたGELDOUBLESKY2に宮崎大輔選手カラーリングモデルが登場。

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五二八号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成二十四年六月二十六日印刷
平成二十四年七月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三三六
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円